

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために

# ひと・健康・未来

vol. **18**

2018.9

**特集** ひと・健康・未来シンポジウム 2018 京都

## 人間の家族に未来はあるか？！

子育てと介護に希望を紡ぎ出す発想

スペシャルインタビュー

### お茶の心でおもてなし

堀部 寛子 炭屋旅館 女将

第31回 未来研究会

### 京の油商人の、昔と今とこれからと

浅原 貴美子 株式会社山中油店 取締役 営業部長



# ひと・健康・未来

第18号 2018年9月発行

発行 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団  
〒604-8171 京都市中京区烏丸通御池下ル虎屋町 566-1  
井門明治安田生命ビル 6F  
TEL & FAX 075-212-1854

印刷所 株式会社あおぞら印刷  
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町 15  
TEL 075-813-3350 FAX 075-813-3331

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団では、ホームページを運営し事業の広報活動を展開しています。研究助成公募や市民公開講座に関する内容はホームページをご確認ください。

ホームページアドレス

<http://www.jnhf.or.jp/>



04

特集  
ひと・健康・未来シンポジウム2018 京都

人間の家族に未来はあるか?!  
子育てと介護に希望を紡ぎ出す発想

●ヒトの子育ての原点  
—少子化問題を再考する—

京都大学大学院教育学研究科教授

明和政子

●いのちと向き合うという発想

京都大学大学院医学研究科教授

田村恵子

●家族の希望を可視化するという発想

東京大学名誉教授・国際医療福祉大学大学院教授

亀口憲治

●総合討論

シンポジウムコーディネーター

畠中宗一

20

スペシャルインタビュー

お茶の心でおもてなし

炭屋旅館 女将

堀部寛子

27

コラム  
ゴリラレポート

第3回 ゴリラは声を立てて笑う

理事／京都大学 総長

山極壽一

28

2018年度 研究助成採用結果のご報告

研究助成採用者メッセージ

動物の感覚

—ヒトとの比較において—

京都大学霊長類研究所  
ゲノム細胞研究部門ゲノム進化分野  
教授  
大学院生

今井啓雄  
林美紗

32

第31回 未来研究会

京の油商人の、昔と今とこれからと

株式会社山中油店 取締役 営業部長

浅原貴美子

39

インフォメーション・編集後記

シンポジウム開催のご案内・会員登録



表紙について

特集をテーマに、京都市立芸術大学大学院の皆さんに描いていただいています。



〈作者からのコメント〉

網田 康平 さん 京都市立芸術大学 修士課程卒業生  
愛と絆で結ばれた三世帯というかつての理想の家族像を暖かでノスタルジックな「我々の原風景」として表現しつつ、同時に今日失われゆくものとしての無常感を漂わせるように描き出そうと思いました。

監修／辰巳 明久 教授

柔らかな画風の家族の肖像。優しい色使いの中に未来への希望が見出せる絵です。

たむら けいこ  
**田村 恵子**

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 臨床看護学講座  
緩和ケア・老年看護学分野 教授 / がん看護専門看護師

1996年聖路加看護大学大学院看護学研究科修了。1997年にがん看護専門看護師を取得。2006年大阪大学大学院医学系研究科修了（医学博士）。わが国における末期がんに対するホスピスケア（緩和ケア）の草分けである大阪市・淀川キリスト教病院で1987年より27年間務め、約6000名を超える看取りに向き合う。2014年1月より現職。さらに、2015年7月より、地域で生活するがん患者や家族ががんをきっかけとして語り合い、生きる知恵や支え合う力を育む市民活動「ともいき京都」を開始し、ケア的コミュニティづくりを目指している。ホスピスでがん患者を最期まで看取り、家族の看護にも取り組む姿がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で2008年に放映された。代表的な著書に『余命18日をどう生きるか』（朝日新聞出版）、『看護に活かすスピリチュアルケアの手引き 第2版』（青海社）などがある。



「いのちと向き合うという発想」

第18回 ひと・健康・未来 シンポジウム2018 京都

# 人間の家族に

## 子育てと介護に

かめ ぐち けん じ  
**亀口 憲治**

国際医療福祉大学大学院教授（臨床心理学専攻主任）  
東京大学名誉教授、教育心理学博士、臨床心理士、家族心理士

1975年3月 九州大学大学院教育学研究科博士課程全単位修得  
1975年4月 九州大学教育学部助手  
1980～1982年 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校(フルブライト研究員)  
1995年4月 福岡教育大学教授  
1996年4月 福岡教育大学附属教育実践研究指導センター長  
1998年4月 東京大学大学院教育学研究科教授、福岡教育大学名誉教授  
2002年4月～2003年3月 東京大学総長補佐  
2004年～2008年 臨床心理学コース主任教授、東京大学学生相談所長  
2008年4月～2011年3月 東京大学特任教授（学生相談ネットワーク本部企画室長）  
2011年4月～ 国際医療福祉大学大学院教授（臨床心理学専攻主任）、現在に至る  
2012年6月 東京大学名誉教授  
役職：【一社】家族心理士・家族相談士資格認定機構理事長、国際家族心理学会（IAFP）前会長、日本臨床心理士資格認定協会評議員、日本家族心理学会常任理事（家族心理臨床研修センター長）、NPO法人システム心理研究所所長  
専攻：臨床心理学、家族療法、家族心理学  
受賞歴：フルブライト学術奨励賞、日本家族心理学会功労賞  
主要編著書：家族臨床心理学 東京大学出版会 / 家族のイメージ 河出書房新社 / 家族療法的カウンセリング 駿河台出版社 / 心理臨床大事典（改訂版）培風館 / 家族力の根拠 ナカニシヤ出版 / 心理療法ハンドブック 創元社 / 家族療法 ミネルヴァ書房 / 家族心理学特論（改訂新版）放送大学教育振興会 / 夏目漱石から読み解く「家族心理学」読論 福村出版、その他多数



「家族の希望を可視化する  
という発想」

一方で生産的・課題達成型の価値観が重視され、他方で利便性・快適性・効率性を志向する社会において、家族も多くの影響を受けます。家庭をオアシスと表現した時代がありましたが、家族の居場所としての機能が後退しているように思います。多くの家族問題の多発化は、脆弱化した家族機能を象徴しているように思います。本シンポジウムでは、家族の否定的イメージではなく、家族の未来に希望を紡ぎ出す発想を紹介していきます。

シンポジウム企画 / 総合討論 司会進行

はた なか むね かず

## 畠中 宗一

関西福祉科学大学教授・大学院社会福祉学研究科長・図書館長・学長補佐。大阪市立大学名誉教授。博士（学術）。日本精神保健社会学会理事・副会長。日本家族心理学会機関誌編集委員。日本社会病理学会学術奨励選考委員。日本 IPR 研究会代表。



# 未来はあるか？！

## 希望を紡ぎ出す発想

みょう わ まさ こ  
**明和 政子**

京都大学大学院教育学研究科 教授

京都大学教育学部卒業。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。京都大学霊長類研究所研究員、京都大学大学院教育学研究科准教授を経て、現在京都大学大学院教育学研究科教授。日本学術会議連携会員。生物としてのヒトとヒト以外の霊長類の心のはたらきを胎児期から比較し、ヒト特有の心の発達とその進化的基盤を明らかにする「比較認知発達科学」という分野をあらたに開拓した。それにより、ヒトにとって真に適応的な養育環境、発達支援の基本的指針を科学的根拠にもとづき提案することを目指している。日本語で読める単著として、『まねが育むヒトの心（岩波書店 2012年）』、『心が芽ばえるとき—コミュニケーションの誕生と進化（NTT出版 2006年）』、『なぜ「まね」をするのか（河出書房新社 2004年）』などがある。2016年、2017年に放映されたNHKスペシャル『ママたちが非常事態!?（1・2）』『ニッポンの家族が非常事態!?』に制作協力・出演し、大きな反響を呼んだ。



「ヒトの子育ての原点—  
少子化問題を再考する」

2018年3月24日  
京都烏丸コンベンションホール

# ヒトの子育ての原点

## — 少子化問題を再考する

京都大学大学院教育学研究科教授

みょうわ まさこ  
明和 政子

今日は、人間の子育てとは本来どうあるべきかを考えたいと思います。その鍵となる問いは、次の三点にあります。

ひとつめは、「ヒトとは何か。ヒトに特有の心の働きとはどういったものなのか」という問いです。ヒトも当然ながら動物の一種です。生物学名は、ホモ・サピエンスといいます。生物としてのヒトがもつ固有の行動や心理を知ることが、ヒトの本来の子育てを考える前提となります。

ふたつめは、「ヒトの行動やその背後にある心の働きはどのように、そしてなぜ今あるようなかたちで進化してきたのか」という問いです。動物は長い時間をかけて環境に適応しながら今あるような姿形、そして目には見えない心の働きを獲得してきました。

三つ目は、「ヒトの行動や心の働きは、いつ、どのようにに創発し、発達していくのか」という問いです。つまり、個体発生（発達）の視点です。ヒトらしい行動や心の定型あるいは非定型とはどのようなものかを考える上で必須です。

### ■ 基礎研究の知見を現場で生かす

私は学部生のころより、京都大学霊長類研究所でチンパンジーの行動や心の働きについての研究を行ってきました。チンパンジーは、現在地球上に生きている動物のなかでもっともヒトに近縁な動物です。DNAの塩基配列でいうと九八・八パーセント同じです。研究所には、ことばや数をおぼえた「賢い」チンパンジーたちが生活していて、彼らと生活時間を共有しながらチンパンジー特有の心について多くのことを学んできました。そして、三〇代になってから子どもを授かった経験から、今度はヒト特有の心について学びたいという思いが強くなり、ヒトの心の働きに研究の重心を移しました。

たとえば私の研究室では、まだことばを獲得していない発達段階の赤ちゃんの心の働きを可視化する技術、たとえば図1にあるような脳イメージングや視線自動検出装置、モーショントラッキングなどを用いながら研究を行っています。主観的な観察にもとづく評価だけでなく、客観的・科学的な検証から、ヒト特有の心や行動が創発・発達する道すじとそのメカニズム（機構・原理）を明らかにしようとする試みです。



図1 おもな研究拠点

現代社会では、「普通」の意味がわからなくなっている。だからこそ、ヒトの本性を正しく知ることが重要です。

### ■ 「比較認知発達科学」からヒトの本性を探る

ヒトはどのように、そしてなぜ今あるような行動や心の働きを進化させてきたのか。これを知るには、ホモ・ハビリスやホモ・エレクトスといった、すでに絶滅したホモ・サピエンスの直接の祖先がどのような心の働きをもっていたかを知る必要があります。しかし、彼らが私たちに残してくれる情報は、せいぜい石器程度で、心の働きは残りません。ではお手上げかというと、そうではなく、チンパンジーという存在がヒトの心の進化について重要なヒントを与えてくれるのです。ヒトとチンパンジーの心の働きとその発達のプロセスを比較することで、ヒトの心がうまれる道すじを知ることができます。この研究アプローチは「比較認知発達科学」と呼ばれています。

図2にあるように、ヒトの祖先は二五〇〇万年前までは、ニホンザル、チンパンジーの祖先と、そして七〇〇万年前までは、チンパンジーの祖先と同じ動物として生存していました。ヒトとチンパンジーで類似する心の働きは、両種が共通の祖先として生きてきたどこかの時点ですでに獲得されていたと推察されます。他方、ヒトとチンパンジーに特有の心の働きは、両種の祖先が分岐した後、それぞれの種の直接の祖先がどこかの時点で獲得してきたものと推察されます。

チンパンジーは、お母さんがひとり産み、育てます。お父さんは誰かわかりませんので、血縁として認識できるのはお母さんだけです。野生のチンパンジーでは、お母さんの養育拒否はまずありません。誰かに触ら

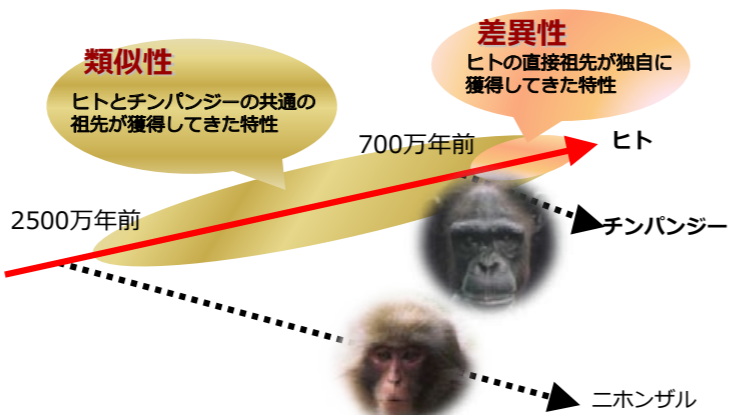


図2 ヒトとチンパンジーを比較する  
写真提供：京都大学霊長類研究所

せることも嫌がり、子どもが自力で母親のそばを離れるようになるまでずっと抱き続けます。

ところが、飼育下のチンパンジーでは二例に一例が育児拒否するという報告があります。動物園をはじめとする飼育下のチンパンジーの多くは、幼少期に社会集団のなかで育っていないことがそのおもな理由とみられています。赤ちゃんとはどういった存在で、どんなにおいや肌触りがし、どのようなふるまいをする存在なのか、そうした出産、子育てに関する知識を集団の仲間から観察学習する経験が剥奪されてきたからです。ある日突然、自分の身体から何かが出てきた、そうなるのとパニックに陥るのは当然でしょう。これはヒトにも当てはまること

### ■ 現代社会ではヒトの環境が劇的に変化している

ホモ・サピエンスが二〇万年という長い時間をかけて環境に適応してきた結果が、今私たちがもつ身体や脳の働きであるわけですから、本来は「普通の環境で普通に育てれば、普通に育つ」はずですが、ところが、現代社会では子育てを巡る問題が深刻化の一途をたどっています。この一〇〇年、いや数十年の間に、現生人類を取り巻く環境は劇的に変化しました。二〇万年という長い時間をかけて環境に適応しながら獲得してきた行動や心の働きが、この未曾有の事態に適応できなくて当然です。

だと考えられます。幼少期から子育てという営みを日常的に経験していない限り、親としてふさわしい心や行動をとることは不可能なものです。出産と同時に母性とよばれるものにスイッチが自動的に入り、子育てが始まるものではないのです。

チンパンジーの場合、七〜八年ぐらいで親離れし、お母さんは次子の出産に向けた身体の準備に入ります。ひとりの子をじっくり時間をかけて育て上げてから、次子を産むのです。ところがヒトの場合、子どもが自立するまでに長い時間がかかります。しかし、お母さんの身体は出産後一年も満たないうちに次子を産める状態（排卵が再開）になります。なぜ、こうした矛盾がヒトで起こるのでしょうか。ひとつの有力な説は、ヒトは「共同養育」という子育て形質により生存可能性を高めてきたという見方です。お母さんだけが子育てを担う存在ではなく、集団の仲間が子育てにかかわることで多くの子孫を残すという生存戦略をとってきたと考えられます。

しかし、次のような疑問も浮かびます。なぜヒトは血縁関係にない個体の子育てにまでこれほど注意を払い、共同養育にかかわろうとするのでしょうか。現代社会では、赤ちゃんポストや児童養護施設などの設置により、恵まれない環境にある子どもたちの支援をする社会システムが構築されています。血縁関係をこえた共同養育までもがみられる形質がみられるのはなぜでしょうか。私は、ヒト特有の心の働きがヒトの共同養育の進化と密接に関連しているとみています。

### ■ 相手の心を理解するための二大脳神経ネットワーク

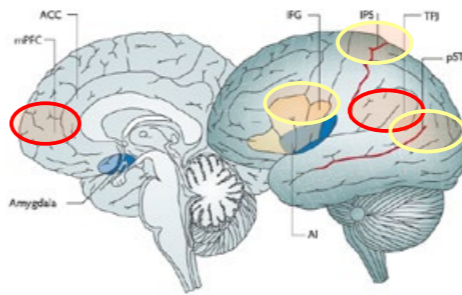
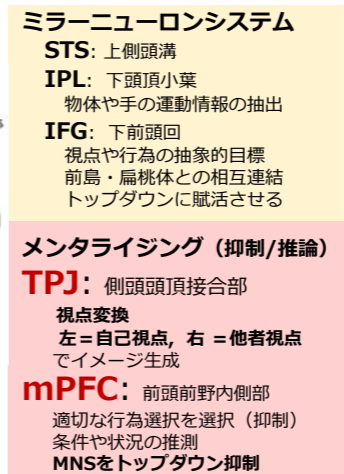
相手の心を理解するための脳神経ネットワークは、大きくわけて二つあります。「ミラーニューロンシステム」

と「メンタライジングシステム」です。

図3をみてください。黄色い枠で囲った部分を中心として構成されるのがミラーニューロンシステムです。また、赤い枠のメンタライジングシステムで主役として働くのは前頭前野です。メンタライジングシステムは、ヒトで顕著にみられるもので、推論したり、イメージしたりする重要な認知機能に関与します。以下、それぞれのネットワークについて説明します。

ミラーニューロンシステム

文字どおり、自分と相手の動作が鏡のように処理され



Blakemore, S.-J., 2008, Nat. Rev. Neurosci.

ヒト成人脳イメージング

図3 他者の心の状態を理解する2大神経ネットワーク

る機能に関与する神経細胞です。一九九二年、イタリヤのパルマ大学のチームがサルで発見しました。図4・Aのように、研究者がサルの目の前で物をつまむ動作を見せると、サルの脳のある部分にある神経細胞が活動します。今度、サルにそれと同じ動作をさせると、その動作を見たときに活動した細胞と全く同じ細胞が活動したのです(図4・B)。鏡のように「自分が実行できる動作」自分が理解できる動作」、つまり、自分が経験した行為が、理解できる行為として反射的、自動的に処理されるのです。そこには、自他の区別は必要ありません。ヒトでも、サルで確認されたミラーニューロンに相当する部位に、行為の「実行」理解」の自動処理システムが存在することが確認されています。例えば、私が皆さんの前で梅干しを食べたすっぱい顔を見ると、みなさんも思わず唾液があふれてくるでしょう。それは、みなさんが梅干しを食べた経験があるからです。ところが、アフリカで子どもたちの前で梅干しを食べても、そうした身体反応は彼らには起こりません。彼らは、梅干しを食べた経験がないからです。

メンタライジングシステム

自分と相手の心の状態を分離して理解することを可能にする神経ネットワークです。このネットワークの中心的な役割を果たすのは、前頭前野です。相手の心の状態を場面に応じてイメージしたり、推論したりする機能に関与します。例えば、自身に嬉しいことがあっても、目の前にいる友人が悲しんでいるときには笑顔を抑制しようとするでしょう。自分と相手の心の働きは独立したものであることを理解し、相手の立場にたつたふるまいを可能にするメンタライジングシステムは、ヒトが独自に進化させてきた脳内ネットワークです。

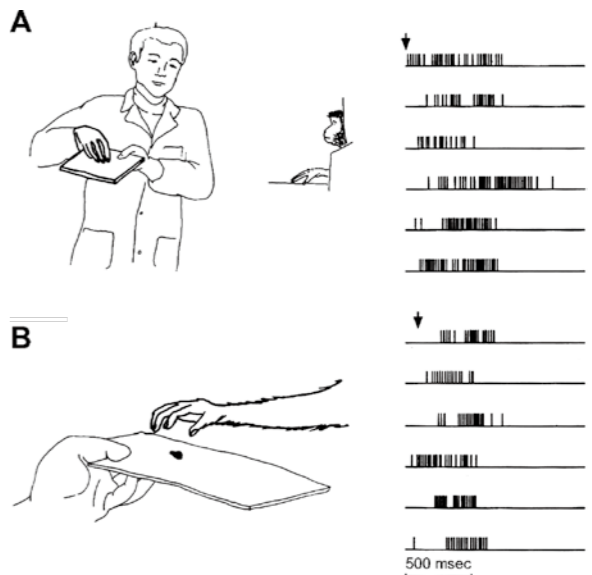


図4 サル: Mirror Neuron (Di Pellegrino et al., 1992)

ヒトは、かわり・教えたがる動物

メンタライジングシステムを独自にもつヒトは、相手に協力したり、教えたりすることができます。なぜなら、協力や教育は、相手の心の状態を自分のそれと分離できてはじめて可能となるからです。自分にはできるけど、相手にはできない、ということが分かるから教育が成り立つ。ミラーニューロンだけだと、自分ができれば相手もできると理解してしまいます。ヒトにもっとも近縁なチンパンジーですら、子どもに積極的に教育することはありません。

アフリカに滞在しているとき、野生のチンパンジーが石で硬い木の実を割って食べる道具使用を観察しました。霊長類研究所の研究によると、この道具使用を子どもがマスターするまでには六年ほどかかります。チンパンジーのお母さんは子どもの手を取ったりして教えない起こりやすくなるのですね。これは、両者の子育てへの関心や動機の違いというよりも、脳内ネットワークの活動の違いに起因すると理解したほうがよいでしょう。

この研究のもっとも重要な結果は、Cグループ、つまり、第一養育者が男性であったグループです。このグループの父親では、先の二つの神経ネットワークがともに強く活動していたのです。これらの結果は、生物学的な性差は、子育てに関与する脳内ネットワークを規定する要因ではないことを意味します。子育てに必要な脳や心の働きは、生まれながらに女性に埋め込まれているものではなく、子育て経験、子育てにおける役割により、柔軟に、可塑的に形成されていくのです。母性、父性という従来の価値観、表現は科学的根拠にもとづいて改める必要があります。研究者は、子育てに必要な脳内ネットワーク特性を、「親性」と呼ぶのが妥当であると主張しています。

余談ですが、メンタライジングシステムの主役である前頭前野が大人のレベルまで成熟するのに二五歳から三〇歳までかかります。私が日ごろ接している大学生の脳は、まだ発達途上なのです。一六歳から三〇歳までは、メンタライジングシステムの発達を支えることがとくに必要となる時期です。子育てに特化した脳と心の発達には、思春期のころから精力的に行われるべきでしょう。

発達科学者としての私たちのミッションは、ヒトの子育てに関する正しい知識を、社会に伝えていくことです。同時に、子育てする側の心身を支援するための「真に適切な」方法を、科学的根拠をもって提言することも喫緊に取り組むべき課題です。それはひとえに、人類の未来を守る挑戦でもあります。

ヒトの「親性」も育つ

今度、育てる側の脳と心の働きに目を向けてみましょう。最近、大変おもしろい研究成果が報告されました。先述の、ミラーニューロンシステムとメンタライジングシステムを思い出してください。この研究では、乳児を養育中の親がMRI内に入り、自分の子どもが泣いている場面を観察しました。参加した親は、次の三つのグループで構成されていました。

- Aグループ 第一養育者であるお母さん(主婦)
- Bグループ ほとんど子育てにかかわっていないお父さん
- Cグループ 第一養育者であるお父さん(主夫)

子育てに関与する脳のはたらきに生物学的な性差があるとすれば、Aと、B・Cとのあいだで脳活動に違いがみられるはずですが、

Aグループでは、ミラーニューロンシステムが強く活動することがわかりました。日々赤ちゃんと経験を共有することで、赤ちゃんの泣き声にたいして自動的にミラーニューロンシステムが賦活すると考えられます。他方、Bグループではミラーニューロンシステムの活動は弱く、メンタライジングシステムが強く活動しました。子どもの泣き声に自動的に応答するのではなく、前頭前野で何が起きているのかを意識的に推論しているのです。メンタライジングネットワークは、ミラーニューロンシステムに比べて遅れて活動することから、「私(妻)は(子どものように)こんなに敏感に気がつくのに、あなた(夫)はなぜ気づかないの!」という夫婦不和が



図5

# いのちと向き合うという発想

京都大学大学院医学研究科教授

田村 恵子

## ■日本のがん患者の現状と将来予測

私はがん患者さんへのケアが専門で、将来看護を担う人たちの教育に携わっています。今日は、緩和ケアにおける看護の現場を、患者さんとの関わりを中心に話したいと思います。

がんに対しては、非常に怖いとか、自分や周りの人がかかったらどうしようって思われる方が多いと思います。まず、今の日本のがん患者さんの状況ですが、二人に一人はがんにかかり、三人に一人はがんで死亡するといわれています。そして、高齢化が進み罹患数と死亡者数は増加、二〇三〇年前後には、がん多死社会が到来するというのが国の予測です。

現在、働き盛り世代の死因の約四〇パーセントはがんです。子どもが病気で亡くなることは少なくなっていますが、病気で亡くなる理由の一番はやはりがんです。比較的若い世代のがんによる死亡率は一時期すごく下がりましたが、今はちよつと鈍化しています。早期発見、それから治療法の進歩によって生存率そのものは向上しており、がんにかかって五年経過した方の六割以上はがんとともに生活されています。がんにかかる方、亡くなる

## ■患者さんの声

「よくなると思うからつらい治療も頑張ってきた。それなのに、もうよくなるらないでしょう。もう希望はない。これじゃ生きていても意味ないでしょ。」  
「治療法がないってどういうこと？何もしなかったら病気はどうなるの？何とか治療をしてください。何とか治してください。」

非常に切実な叫びだと思えます。そして、ご家族も同じように苦悩を感じておられます。ときには「検査が間違っている」、「検体が違うんじゃないか」そういった言葉も聞かれます。でも、それぐらい言わざるを得ない、心のありようかなと思います。

亡くなる二カ月前、五割ぐらいの方にがんによる痛みが出現し、それは少しずつ増えていきます。例えば脳梗塞になると、体のどこかに変化が起こり、そのときからずうつと不自由を抱えて生きていくことになりま

す。がんの場合は、亡くなる一カ月前まで通常の生活をされている方、とても多いです。亡くなる一カ月前になると、痛み以外に食欲不振、全身倦怠感、身の置きどころのないしんどさ、そういった変化が起こってきます。緩和ケアをしていきますが、全ての痛みを取り除くことは難しい状況です。でもやわらいで、すこく楽になります。この時期の患者さん、「食べたいと思わなくなった。頑張つて食べようとするけど、砂をかんでいるようで味がしない」といわれます。ご家族も何とか食事の工夫をされて、一口でも食べてほしいと願われますが、患者さんにとって、食事のことを言われるのはとても負担が強いとお聞きます。わかっているけど食べられない、そういう状況です。

方で単純計算しますと、毎年六〇万人のがん患者さんが増えているのが現状です。ある方のお話ですが、「私だけががんだと思って話していたら、実は相手もがんだった」。ブラックジョークに近いですけど、それぐらいがんにかかる方は増えています。

## ■がんサバイバー

がんにかかる、がん疼痛、不安、夜眠れない、経済的な面での不安など、様々な痛みが伴います。それから、どうして自分ががんになってしまったのか、何か自分が悪いことをしたのか、というスピリチュアルな苦痛。全人的な視点から苦痛を捉えて、患者さんやご家族にかかわるのが私たちの立ち位置になります。

私は長い間、人生の終末期の人たちのケアをさせていただいていました。がんとともに生きる経過は非常に長くなっています。聞かれたことがあると思いますが、がん体験者のことを「がんサバイバー」といいます。ピンクリボン運動がありますが、乳がんのサバイバーの私たちの活動です。このサバイバーというのは、がんと診断されても、そのあとの人生を最期のときまでがんと共

## ■喪失の連続

このような状態になると、いろんなものを手放していくことになります。目に見えるのは、身体や機能の変化、お仕事、学校生活などです。実は目に見えないものもたくさんあります。私は自分がこんな人だと思っていたのが、どうもそうじゃなかったみたい。お友達や同僚と疎遠になります。来年はハワイに行きたいと思っていたのに、そういった夢や希望。そして、自分が大切にしてきた価値や信念も手放さざるを得ない状況になります。

この状況を見ていると、失うというより剥ぎ取られていく感じがします。

この頃になると、患者さんからは、早く終わりにしてほしいと。でも、いのちはまだしっかりとあります。多くの人が、私たちに何とかしてって言われ、できる限り

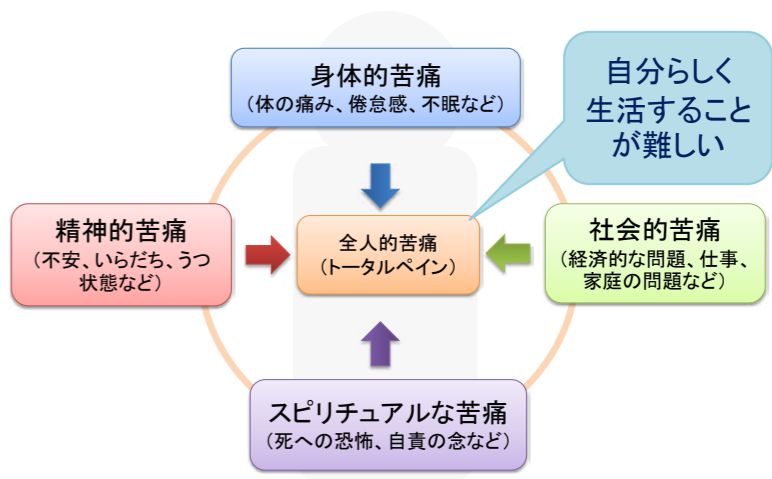
- 目に見える喪失
  - 身体や機能の変化
  - 社会、地域、家庭での役割
  - 仕事や学業
- 目には見えない喪失
  - 自己のイメージ/アイデンティティの揺らぎ
  - 家族、友人、同僚などとの関係性
  - 夢や希望
  - 価値や信念

→ ‘失う’というよりも ‘剥ぎ取られる’

### 喪失の連続

さらに病状が進むと、他の人に依存しないと生きていけません。人間関係って実はファイファイファイのところがありますね。私たちの年代になると、誰かに頼って生きているというより、自分は一人で頑張つて生きているという感覚が強いと思います。それが無理になりて聞いて直し、苦悩され、その中で次のステップを探されないといけないと思います。先ほど、立ちすくむとか、すべなりわい、としていました。これを可能にしていくのがケアではないか。看護師さんが患者さんをケアするのはなく、お互いに相手のことを大切にすることがケアなんです。苦しい、つらい状況の中でも、最期までできること、それがケアではないかと思っています。

「一人の人格をケアすることは、最も深い意味で、そ



がんに伴う様々な痛み

の緩和はしますが、いのちを終わりにすることはできません。死のほうからどんどん迫ってくる、向こうから近づいてくる、逃れられなくなって、後ろに下がることしかできなくなると言われます。こうした段階になると、私たちは立ち尽くすしかすべがありません。その場に居続けることしかできないと考えています。

## ■ケアリング

次第にコミュニケーションが難しくなってきました。これは、患者さんからだけではなくて、むしろそれを支える人たちにも起こってくることです。例えば、お見舞いに行きたいけど、どんなふうに、何て言ったらいいの？とよく聞かれます。何と声をかけたらいいのか、わからないんですね。今まで通りでいいですよ、今までのように、笑顔でいてくださいとお伝えしていました。

の人が成長すること、自己実現することをたすけることである』これはミルトン・マイヤロフの「ケアの本質」という本にあります。私はこの方のケアの考え方がとても好きなんです。こういったことがあるからこそ、私たちはその場にとどまり、そしてそういった究極の状態とも言える中でお互いがお互いを認め合うことができるのではないかなあと思います。

ホスピスに入院してこられた方たちから、こういう言葉をよく耳にしました。「これまで突っ張って生きてきた。ここに来てみんながゆつくり話を聞いてくれるから、もう力抜いてもいいかなと思ってきました。話を聞いてもらおうと落ち着くなあ」と。入院してしばらくは、肩から力が抜けませんが、少しずつ私たちがケアをさせていただく中で、こんな言葉が聞かれるようになりました。そして、私がとっても大事にしている言葉で、「歩きたい。歩いたらピアノのところへ行くよ。車椅子じゃかっこ悪いから」。長い間ピアノの先生をしていた四〇代女性の言葉です。若いスタッフが気を遣って、ピアノがあるから弾きに行きませんか、って声をかけました。いいわって、断わられました。私が、何かこちらの対応がよくなかったですかって聞くと「いや、そうじゃなくて。ピアノは、ちゃんと椅子に座って、足を地に着けて弾くのよ。私、今、足は地に着かないでしょ」と言われ、私、はっとしたんですね。何か本当にかたちだけを追っていたな、ごめんなさい、そこまで思ってたかったな。そのあと、歩けるようになったら、一緒にピアノを弾きに行こうと約束しました。しかし、残念ながら、彼女が、ピアノを弾くことはありませんでした。

七〇代の男性の方です。「息子に仕事を引き渡したけど、なんぼか気になる。もうちょっと見とってやらんどの人生を一緒に味わいながら一緒に生きていくことができるんではないかなと考えております。死との対峙っていうのは、実は互いのいのちに寄り添うことではないかなあと思ってたケアをさせていただいております。

【ともいき京都】

最後に、今、新しい取り組みをしているので、そのことを少し紹介したいと思っております。御所の西で、二年半ぐらい前から「ともいき京都」といった活動を第二、第四金曜に行っています。

京町家をお借りして、そこで大切にしているのは、お互いの生きる力を発揮して、持っている知恵を育みながら、支え合いながら生きていくことです。ポイントは、対話です。

よく話題になるのがお食事のことです。お食事って一年三六五日、毎日あることなので、患者さんやがんとともに生きる人にとって大事な話題です。そうすると、ある方はものすごく制限している、ある方は自由に好きなものを何でも食べている、あるいはお砂糖だけはやめているとか、いろんな食事の方法がありますよね。参加者は話を聞くといろんなパターンがあつて、これが正解っていうのは実はなく、いいとこ取りをしなげら、私はこうしようと思いついて帰られるわけです。対話というのは、合意していくことを目的にしています。何が問題なのか、何が自分の中で困っていることなのか、それをもう一回考えてみる、そういったプロセスを大切にしています。お互いの中で自分の価値にかかわること、自分が自分らしくあることをお互いに話し合いながら、生きていこうとする、そういった取り組みです。

年に二回ですが、季節のいいときに御所の中を無

なあ。」と言って自分がこれから生きていくための意思表示をされました。こういった言葉を聞くときちょっとほっとし、一緒に、じゃあ、どうしようって考えていく、そういったケアもあります。実は失うことや悲しみを嘆きながらも、多くの人たちは今ここで手にすることができたものに、とても感謝されています。そして、もしかしたら新薬ができるのでは、このままよくなつていくんじゃないかって奇跡を望まれる一方で、やっぱり難しいかなくて。そう言いながら、一緒にお葬式の写真選んでおきたいといった心の動きかなというふうに感じています。

若い女性で、病気がわかってから一年もたたずに亡くなった方です。ある朝、ゆうべ眠れた？って聞いたたら、「うーん、そうねえ」って言って、にっこりしながら「前のおばあちゃん、すこくかわいいの。看護師さんたちは、ちょっと困っていることもあるけど。私もおばあちゃんになりたかった」。年取りたかった」と言われま

【いのち】と向き合う

私たちが毎日生きてるっていうのは、生と死が常に隣り合わせ。多くの場合、生と死はフィフティフィフティだと思っただけ。皆さんも一緒だと思っただけ。それが全体としてのちとしてつながっていつてるように思います。

そして、何が大事かっていうと、生きていることはもちろん大事ですけども、実は死を含めたいのちを大切にしないと私たちは崩壊してしまうんじゃないかな。生



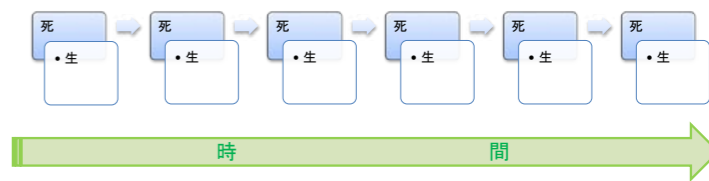
- 2015年7月10日より活動開始
- 開催日：第2・第4金曜日 14:30 ~ 20:00
- 会場：コミュニティスペース「風伝館」

京都市営地下鉄「丸太町」駅より徒歩5分  
ホームページ：<http://tomoiki-kyoto.net/>



「ともいき京都」活動

- 生と死が常に隣り合わせの“いのち”を 生きている
- 互いの“いのち”に寄り添うケアが大切



“いのち”と向き合う

きるばかり、例えば五〇〇年後生きてると思つたら皆さん、どうですか？私はノーサンキューですね（笑）。ちょっともう勘弁してくださいって感じになると思うので、やっぱり死は必要かなと思つています。でも、明日死にますよって言われたら、ちょっと困るかなって感じがして。となると、やっぱり生と死が常に一緒にある、それを見つめていく力がとても大事かなと思つていきます。ケアっていうのは実は相手のためにしているようすけれども、私たち自身にかえってくることで。ケアする人それぞれが、相手のことをケアする。その人たちは自分自身が理解することが可能になり、そして相手

術大学学長）がこんな一節を書いておられます。『それらのホスピタブルな光景には、しかし、いつも、どんな場面でも、ある反転が起こっていた。存在の繕いを、あるいは支えを必要としている人に傍らからかわる、その行為の中で、ケアにあたる人がケアを必要としている人に逆にときにより深くケアされ返すという反転が。より強いとされる者がより弱いとされる者に、限りなく弱いと思われざるを得ない者に、深くケアされるということが、ケアの場面では常に起こるのである』（鷺田清一著「弱さ」のちから ホスピタブルな光景」引用）  
こういった場面がたくさん起こっていると、すてきななああと思っております。  
今日、私の体験に基づいてお話をさせていただきましたが、死はすべての人に必ず訪れる事実です。死について考え、向き合うことで、私はいのちの尊さや生きることの大切さを感じるようになってくると思っております。これはほかならぬ、がんとともに生きる人たちから教えられた真実です。今の社会はなかなか生きにくい、難しい社会になっていすけれども、患者さん同士の関係、患者さんと医療者という関係を越えて、集う人たちが互いに支え合うコミュニティ作りといったものが大切ではないかと思っております。これが人間の家族に未来はあるかという問いの答えにつながっていくと思っております。

言で歩く哲学散歩をしています。参加者は哲学ナゾナゾを渡され、答えが見つかったら手を挙げて、そのときだけしゃべることができるという、かなり変わった散歩です。すこく人気があります。皆さん、哲学者になります。  
こういった、人と人とが支え合う、お互いのいのちに寄り添うのは、ホスピタブル（親切にもてなす）な光景かなと思います。  
それに関して、私の師匠の鷺田清一先生（京都市立芸





《Aさんの社会生活歴》

社会生活歴Ⅰ

- 代々続く旧家
- 両親：結婚して間もなく子どもを授かるが流産
- 長男として産まれる
- 祖父母：Aさんを大変かわいがった
- 母：Aさんを祖父母に取られてしまったようで寂しい次男をかわいがった
- 父：仕事が忙しく子育てにはあまり関わらなかった
- Aさん：幼少時弟を殴ることがあった

「僕は祖父母の子ども、弟は両親の子ども。」

社会生活歴Ⅱ

幼少時～小学生

- 父：殴る・蹴るなどの暴力
- 母：見ているだけ

小学生

- 学校でのいじめ

中学生

- 不登校

高校生

- 女子の同級生と付き合いはじめる

特殊メイク専門学校

- 無断欠席が多かったため休学
- アニメーション映画の仕事
- 連絡が取れないことが続いたため解雇

- 父：過呼吸
- 母：円形脱毛症・腸炎で入院

Aさんの多重人格

- 「主人格」  
おとなしい・気が弱い・内向的・やさしく家族思い
- 「世話役の人格」  
リーダー役 数学などの勉強が得意
- 「暴力をふるう人格」  
よく喧嘩をする
- 「遊び好きな人格」  
ゲームと音楽が得意
- 「犬人格」  
遊び好きなペットの犬（愛称〇〇：四足歩行する）

●第一期（個人面談）  
主治医の勤務する病院で個人面接を行いました。Aさんからの主訴は、記憶がなくなり覚えていない時間を減らしたい。突然人格が変わることをなんとかしたいでした。

●第二期（家族面接／問題共有期）  
月一回のペースで、一回実施しました。最初は緊張を走らしていましたが、家族と向き合うことは意欲的でした。

●第三期（家族面接／家族構造の変化期）  
実はここで紐を使ったワークをやりましたが、母親がこういふことを言い始めました。「自分は一度結婚を断られたけれども、親戚の説得により結婚ができた。一番反対した祖母（姑）は結婚式にも出なかった。つまり、結婚自体に困難が付きまといつていった。結婚後、子どもを授かるが流産し、姑に責められてつらかった」。ここに、嫁姑関係の非常にはつきりとしたスタートがあります。

●第一期（個人面談）  
主治医の勤務する病院で個人面接を行いました。Aさんからの主訴は、記憶がなくなり覚えていない時間を減らしたい。突然人格が変わることをなんとかしたいでした。

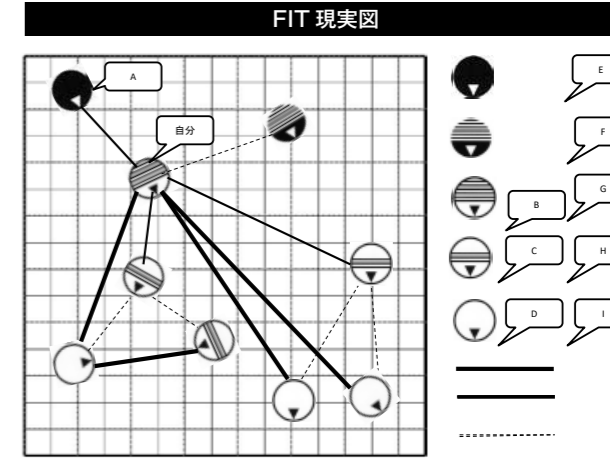
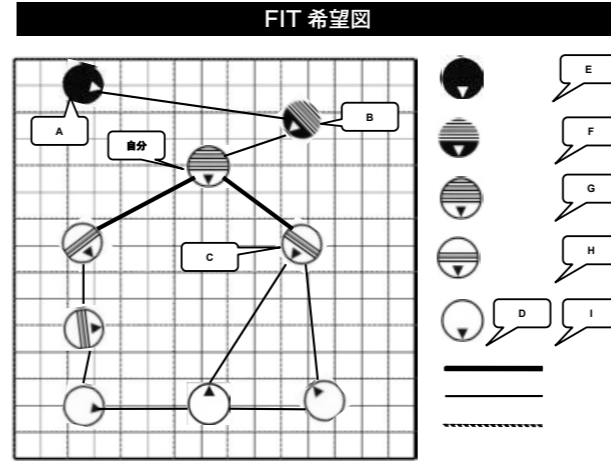
●第二期（家族面接／問題共有期）  
月一回のペースで、一回実施しました。最初は緊張を走らしていましたが、家族と向き合うことは意欲的でした。

●第三期（家族面接／家族構造の変化期）  
実はここで紐を使ったワークをやりましたが、母親がこういふことを言い始めました。「自分は一度結婚を断られたけれども、親戚の説得により結婚ができた。一番反対した祖母（姑）は結婚式にも出なかった。つまり、結婚自体に困難が付きまといつていった。結婚後、子どもを授かるが流産し、姑に責められてつらかった」。ここに、嫁姑関係の非常にはつきりとしたスタートがあります。

●第一期（個人面談）  
主治医の勤務する病院で個人面接を行いました。Aさんからの主訴は、記憶がなくなり覚えていない時間を減らしたい。突然人格が変わることをなんとかしたいでした。

●第二期（家族面接／問題共有期）  
月一回のペースで、一回実施しました。最初は緊張を走らしていましたが、家族と向き合うことは意欲的でした。

●第三期（家族面接／家族構造の変化期）  
実はここで紐を使ったワークをやりましたが、母親がこういふことを言い始めました。「自分は一度結婚を断られたけれども、親戚の説得により結婚ができた。一番反対した祖母（姑）は結婚式にも出なかった。つまり、結婚自体に困難が付きまといつていった。結婚後、子どもを授かるが流産し、姑に責められてつらかった」。ここに、嫁姑関係の非常にはつきりとしたスタートがあります。



家族面接法 ・円環的面接法による多方面の肩入れ



家族面接法 ・リフレクティング法によるチーム



右図はFITの現実の図ですね。例えばこういうふう  
に置いていくと。三角の印の向き、お互い向き合っ  
て、そっぽを向いている、いろいろあると思います。順  
次に置いていきます、名前も書き込みます。  
次に希望です。現実とは違って、自分が希望するイ  
メージに回転させて変えていきます。  
このような作業を通して家族の関係を考えたいだ  
きます。これ、家族だけでなく、もつと大勢で、例えば  
職場の人間関係を見立てて描くこともできます。右側は  
現実、左側が希望になります。この結果をデータ化し  
て、FITがどの程度フィットしているかという係数を  
出せるように開発も進めています。  
写真上は実際の家族面接の場面です。ちょっと多いみ  
たいですが、中に院生も座っています。五〇代、六〇代

の院生は何人もいます。社会人経験を経て臨床心理の修  
士の大学院に入ってきている人たちです。こういう人た  
ちが自分の経験も含めて、個人だけじゃなくて夫婦関  
係、家族関係の改善ということでの心理療法を身につけ  
たいといつて入学してこられます。  
写真左側の端、ここがワンウェイスクリーンで、マ  
ジックミラーですね。この鏡の裏側に観察チームが、常  
時五、六人いて、記録をし、面接が終わったあと討議を  
しています。こういうふうには、外から面接に影響を与え  
ずに観察をして、どういうふうに変化していくかを観察  
学習するのは非常に重要です。そうでないと巻き込まれ  
ていきます。複数の院生が観察をし、妻や夫の立場に共  
感したり、あの子がかわいそうと思ったり、共感の仕方が  
違います。みんな中立じゃあない、自分と同じような  
問題を抱えている家族に対して、ある種、共感、同情す  
る。あるいは、何であんなこと言うんだって反発する。  
それぞれの違いを面接が終わって共有する。リフレク  
ティング・チーム（観察者の議論を家族が観察する）と  
いうふうなことをやります。

事例紹介

二〇歳の男性Aさん、医師からの紹介があり、個人面  
接と家族面接を行いました。診断は解離性同一性障が  
い、解離性の逃走です。週末になるといなくなる。全国  
いろんなところに行っていたらしく、週が明けると戻って  
くる。本人は覚えていない。これを繰り返してしま  
した。Aさんの社会生活歴の概要は次ページの図をご覧ください。

専門学校を休学した頃から症状が出てきます。そのた  
めに父親は過呼吸になり、母親は円形脱毛症や腸炎で入

# 総合討 論

コーディネーター

島中 宗一

パネリスト

明和 政子

田村 恵子

亀口 憲治

**島中** 思春期の子育ての悩みはさまざまですが、素人同志で話すことは意味があると思われませんか。

**亀口** 予防という点では、非常に重要だと思います。もう二五・六年前ですけども、大学のそばの小学校のPTAの役員、全員お母さんですが、子育てについて学校新聞の取材で来られました。一回で終わるはずが、シリーズになりました。その取材で私がミニレクチャーをするわけですが、お母さんたち自身で、何か自己学習みたいなことをできるといいんじゃない？と言うと、やってみたいということ、ロールプレイで、父親役、母親役、子どもの役を、ファミリーロールプレイを即興で五分、一〇分、やってもらいます。シナリオも何もなしで役だけ決めます。Aさんは父親、Bさんは母親、Cさんは年がいつてるけど小学生とか、役をやってもらいました。その役から降りて素になつて感想を述べあいます。これ、デロールといいます。自分が父親の役をやる、なぜ何も言わないのか、よくわかったと(笑)。あ、こういう心境になるっていう他者の立場。子どもは両親がああだこうだと言ってるのを聞かされ、嫌だな、やめてほしい。だけど、何も言えずにそこにジーといた。子ども

もの役をやったお母さんは発言もしてないんですけど、終わってから、たまらないと。これ、五分しかやってないんですが、こんな家にいたくないということ、子どもって思うんだなという。で、一番びっくりしなかったのは母親役で、普段、こうやってるというだけで、別に発見はなかったんですね。つまり、自分とは性も年代も違う、即興でその役になったつもりになることで、他者とやり取りすることで気づくことがいっぱいあると。自己学習ができるんですね。私どもは大学院の実習の中で、これをやっています。ロールプレイができれば、大体カウンセラーになれるんですね。つまり、他者の立場になれないんだしたら、男であれば女であれ、どういう心境か想像できないはずなんだと。例えば、ご主人に何か働きかけたときに、夫としての心の動きが起こってしまう。これ、ある種のミラー現象だと、そしてその経験がストックされてるわけですね。自分は女性であっても、男性の行動パターンを代理経験できます。だから、そういうロールプレイを体験すると、いろんな気づきが得られるように思います。

**島中** 脳のメンタライジングシステムが未発達な若い世代

パンジーには思春期はほとんどありません。人間だけが一〇年ぐらいかけて思春期を終えます。そこには意味があります。感情が爆発することによって、リスクを恐れずに新しい世界にチャレンジする冒険心も生まれてきます。巢立つという、いわゆるリスクを恐れないで違う世界に飛び立とうとする、そういうった心を発達させるということが人間の特徴でもあるので、思春期は重要だと社会でも理解していければいいなと思います。

**島中** 大勢のがん患者さんを看取られ、一番悲しかった経験をあえてお聞きしたいです。

**田村** 悲しいというか印象深い経験ですね。今から三〇年近く前にホスピスで働き始めたときに受け持った患者さんで、大学で心理学の教授をされていました。その方にはお姉さんがいらして、きれいに袋をむいたグレープフルーツをいつも持って来られていました。「食べたい」といわれるので、それを差し出したら、「自分で皮むきたいの」って言われる。自分で皮むくのお姉さんはきれいにむいてはるし、そのまま食べられるよって言ったから、「ううん、お姉さんのそれは愛情でありがたいけど、私は自分で皮をむきたい」と言われました。手先にも力が入らないので、長い時間かかって、汁も落ちます。ようやく口にした後で、「やっぱり自分でむいて食べたらとっても味が違うのよ」って言われたのがすごく心に残っています。何から何まで完璧にするっていうことがケアではないなって。同時に、相手の気持ちを探るのには限界があるなとも思いました。私に何かしてほしいことある？そういう言葉かけが常に大切だなあと思いました。それから、あまり過剰なお世話はしないことにしています。

**島中** 最後に「家族に未来はあるか」というテーマについてお願いいたします。

**明和** 未来を作るのは次世代です。ホモ・サピエンスという私たちが二〇〇年かけて適応してきた環境がこれほど激変した時代はない。そうしますと、次の世代の子どもの心、今私たちが持っている心とは全く違う心になってしまふ可能性がある。しかし、携帯電話やSNSでコミュニケーションするという幼少期からの経験がどれほど彼らのコミュニケーションを変えてしまふかは、三〇年、四〇年たたないとわかりません。そういう意味で、私はいわゆる心の問題を事後的に対処するのではなくて、幼少期から学校教育や地域の教育の中で、人間とは何か、人間との関係とは何か、そして、生まれるということ、生きるということ、死ぬということは何かということ、社会の中で体を使って経験する。スマホではなく、社会の中で体験、経験することでしか本来の意味での私たちの人間の脳、心は守られないと思っっています。ですので、今までは違う発想の中で学校教育、考えていく必要があると思っっています。

**田村** 家族に未来はあるかと聞かれたら、ないと困るなっていうのが、正直なところなんです。そして、未来を作るかどうかは、実は今の私たちにしかかかっていると思っっています。そういう点から、私が責任を持ってできるのは、がんの患者さんへのサポートだと思っ、患者と家族と市民がともに支えあつて生きるための活動を始めました。それは単に患者さんのサポートというよりは、むしろ社会の中で人々が互いに支え合うといった、少し前だったら社会が普通に持っていた機能をもう一度取り返す。今が恐らくラストチャンスなんじゃないかなと思っっています。もう少しすると、支え合っていた社会そのものを見ていない世代ばかりになるだろうと思っっています。国は二〇二五年を一つのターゲットにしてさまざまな施策を出しています。もちろんそれは大切ですが、実は私たち一人一人がお隣のおじさんやおばさんに

の親に対して、どういった支援が有効と考えられますか。

**明和** 今の亀口先生のお話も共通するなと思っただんですけども、相手の立場になつてみるということは、ミニニューロンステムを強化することであり、かつ、それを自分の視点と相手の視点を交換、変換することによってメンタライジングシステムを機能させるということでもあるので、すべて基本は同じだと思っっております。思春期はまだ前頭葉のメンタライジングの活動が未発達。その一方で、性ホルモンは非常に高まります。そうすると、自分ではコントロールできない感情を喚起する脳の深いところにある辺縁系と呼ばれる部分の活動が過活性化し、それは自分でも抑えられないんです。ところが、前頭葉の活動が発達すると、抑制することができ、すごくいらいらしても、「嫌な顔をしたらあかん」って大人の振る舞いができるわけです。ところが、思春期の子どもたちにはそれがまだできないので、ようやくわかんないけど腹が立つという感情が起こります。そういう脳の仕組みを知ると知らないのでは、親御さんの子どもへの理解の在り方が全然違うと思っます。思春期の子どもたちをまず支えることで重要なことは、まだ未発達な子どもたちの前頭葉の役割を外づけハードウェアのようなかたちで接してあげることだと思っます。何でもかんでも言葉にすることができないので、社会、大人がそれをしっかりと説明してあげる。そしてそれを、こんなふうにいらいらししてもしょうがないよねっていうふうを受け止めてあげる。そういうたことを親だけでではなく、社会の側が担っていくことが、本来の意味で思春期の子どもたちの脳を支えていく重要な側面だと思っます。決して子どもたちは悪いことをやっているとばかりではなく、そういう時期が必要なんです。ちなみに、チン

叱られた経験をもう一回思い出してみるとかなどでつないでいかないといけない。そうでないと、子どもたちが次の時代を生きていくことそれ自体が難しくなる時代であると考えています。

**亀口** 家族の未来を考えたときに、そこには男女、親子、祖父母、世代、いろいろありますが、実は家族という集団は、異質性が非常に高い。男女は性差、親子もそれぞれの世代の文化はどんどん変わり、簡単に理解し合えない。生存の基盤にある家族は、チームになれるかどうかです。夫婦もお互い言いたいことあるけど、チームワークしないと子どもは迷惑。以前は一緒にやなきゃいけない、班活動だったんですが、そうじゃなくて、違いをお互いが相補的に補い合う男と女、夫と妻、親と子、祖父母と孫、わずか二人、三人、四人しかいないわけだから。この最小の単位が機能すれば、社会全体もどういかなると思っます。だから、「チーム家族」という標語を文科省、厚生労働省あたりが掲げてくれるといいかな。非常に難しい状況にあるので、あえて「チーム家族」に未来はあるか、やれますかっていうことが、われわれの課題ではないかなと思っます。

**島中** 今回の企画で多分、一番刺激を受けたのは私自身かもしれませんが、最後までありがとうございます。



# お茶の心でおもてなし

炭屋旅館 女将 堀部 寛子

今回は、京都の老舗炭屋旅館の女将・堀部寛子氏を訪ねました。  
お茶の心でおもてなしをするとは、どのようなもてなしのことだろうか。

## 引き手のエピソード

炭屋旅館の歴史も含めて、特徴みたいなものを教えていただければと思います。

**堀部** もともとは刀の鍛冶屋だったようで。刀に関するものがいくつか飾ってありますが。それと同時に、引き手、それから釘隠なども商っていたようです。そないにお商売を一生懸命せんでもよかった時代なのかわかりませんが、とても趣味が多く、謡曲、お茶、焼き物、もういろいろと楽しんでましたようです。そうすると、お友達もたくさんできます。幸いにも京都にはお家元が集まっておられますので、そのお家元のところに全国からお稽古においでになった方々と親しくなり、ちよつとお稽古のおさらいをしましょうとか、「めずらしいものが

手に入りました。召し上がっていかはらしまへんか」とか。そんな事で、人をお集めするのも好きだったのかもわかりません。そして夜遅くなると、ちよつと泊まっておきやす、ということでお部屋お貸しして。それが毎月度重なってきますと、泊めていただくほうはなにがしか置いていかはるようになって。そんなんやつたら一間伸ばしとかというて、奥へ奥へ伸びていって、いつの間にもやら旅館になったというのが始まりだったようです。政府登録になったのは昭和になってからですので、歴史としてはそないに古いほうではありません。ただ、そういう形でお人を泊めてたのはずいぶん昔からだったようです。

父がお菓子の空き箱に引き手ばかり集めて、沢山入れてはったんですよ。唐紙屋さんがフスマを張り直しはってから、父が引き手集めてはることを御存知ですか

ら、「引き手を出してきとくれやす」と言わはるんです。そこで、父が持ってたその箱を出してきて、こややつて当ててみると、まあこれが楽しいんですよ。唐紙とのつりあいもあります。でもそのころは、そのありがたみがわからなかつたんですけど、このころ、やつと自分が張り替えを注文するようになってから、引き手で楽しむって面白いもんやな、ああ、こういう楽しみ方があったんやなあと、つくづく思っています。

## お茶の心でおもてなし

炭屋旅館の女将として最も大事にされていることは何でしょうか。

**堀部** お客さまの身になって考えること。いつでもそう思います。「私がお客さんやつたら」どうかと考えます。「どうしてもうたらうれしかな」そればかりです。それが、おもてなしにつながるのかしら。

先代もお茶が好きで楽しんでました。お家元にもよう通ってはったんです。今のようにお家元もお忙しくなかつたですし、もつと交流もあつたでしょう。祖母の運転手代わりで行つたはずの父もお茶室へ呼んでいただく。そこで、お茶一服頂きながらそばで話をすーつと聞いている。そしてそのうちに、「ちよつと代わりに行ってきて」と、代理で行くようになる。やつぱり、お茶の世界では男の人ですので、正客とか、上の座へすすめられて座るようになります。そうすると亭主と話の受

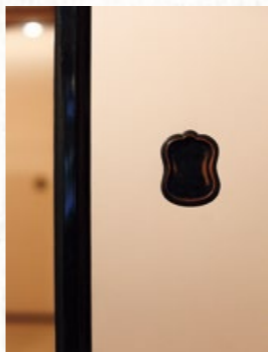
け答えができひんとあきません。そこで、お茶を一生懸命勉強はったんでしよう。

もともと、お茶が自分も好きで、このお茶の心を何とか、人のもてなしに生かせへんやろかと思わはつたのは、父の代になつてからです。お茶とは、今日、招いたお客さまのために、しつらえを整えて、お水もまき、掛物をかけ、お湯もわかし、お花も入れてと、お招きしたお客様のために一生懸命準備する。そして、よかつたですよ言うて喜んで帰つてくれはつた。そうすると自分がうれしい、それがお茶。それを何とかもてなしに生かしたい、旅館に生かしたいなあと思う気持ちがある、私にもすこくわかつてきたので、私もその心を生かしていきたいなと考えています。今ではしつらえ、掛け軸やお花、そういうのが整っていないお部屋は何か恥ずかしいと思うようになりました。それこそおもてなしになつていない。ひと頃、お・も・て・な・しという言葉がはやりましたが、真心を持ってなしたら相手に伝わる、それがおもてなしだと思ふし、そのお茶の心でおもてなしをしていけたらいいなあと思つてます。日々努力ですけど(笑)。これがなかなか難しい。

炭屋旅館の世界では、そういつたおもてなしがもう、いっぱいあふれていると思いますが、一歩外に出ると、全く違った世界があるのでは。

**堀部** もうそれはそれで。炭屋に行つたら、ちゃんとおもてなししてくれはる。そんな風にお客さまが満足して帰つてくれはつたらそれでいいんです。どんな場面でお客さまがそれを満足と思つてくれはるかはお客さまの勝手です。一生懸命おもてなしにつとめる。

例えば、さつきのお昼のお客さまでも、裏千家のお茶





なし。こんな偉そうに言うてますけど、逆もあります。なかなか思いが伝わらない。そんなときもありますね。

### いかにお客さんの心をキャッチできるか

お茶の心でおもてなしをすることは、お客様にどのように受け止められていますか。

**堀部** お茶をご存じないお客さまだったとくさんいわれますし、もしかしたらそういうお客様のほうが多いので、お茶の心で相手の心をつかむ、そういうことは御存知なくても、自分達の事を思っておもてなししてくれてはるんやっつてことを示したらお客さんに通じるかなと思う。

をなるてはるお客さまですが、まだ茶歴の浅い若いお嬢さんたちを連れて先生が来はりました。二月だけする大炬でのお点前を見たことない先生が言わはつて、今日はお昼食の後にその部屋を一度見せてやっつてほしいと。お食事なさっている間に、どうやっつてもなしさせて頂くかなあと考えていました。そしてお部屋でお茶一服していただこうと考えると、その結果すごく喜んでくれるはつて、まさかこのお部屋でお点前してくれはると思わへんかったと。これでよかつたのかなあと思つて、とても満足しています。そのお客さまの期待にこたえらるる、期待以上のことをさせていただけると、それがおもて

山お話しなさる方もありますね。お話し相手がほしいんです。しょうね、学生時代の思い出とか、家内と一緒に来たこととか。まあさまざまです。

その辺の距離感って、意外と難しいように思いますけどね。

**堀部** そうですね。でも、私がこんな性格ですと、割と気さくにしゃべってくれはるので、それはありがたいなあと思つています。あんまり、踏み込んであかんので、その兼ね合いが難しいかな。ちよつとしゃべつてすつきりしはることもある様です。昼間の運転手のクレームとか。お話を聞いて差し上げるのも、一つのおもてなしのうちかなと考えています。

### 日本ならではの文化を体験させてあげる

外国のお客様もたくさんいらつしやると思いますが、どういふ反応が多いんでしょうか。

**堀部** 初めての方もありますが、もう三度、四度と来てはる外国人のお客さまもあります。わざわざこんなに古い老舗に泊まってくれはるんだから、やっぱり日本の文化を体験しようと思つて泊まらはる方も多いと思うんです。なるべく、浴衣を着せてさしあげるとか、おはしを上手に持たせてあげるとか、日本ならではの文化を体験させてさしあげようかなと。

反応はどんな感じですか。

**堀部** 喜ばはりますよ。ライクジャパニーズつて言わはる、日本人みたいですよ。(笑)。

各部屋各部屋のお客さまのお食事の始まる時間、またはその間でご挨拶させて頂きにうかがうんですけれど、結婚記念日を祝いに来てはる方もありますし、還暦のお祝いで家族からいただいた宿泊券で来てはる方もありますし、今晚プロポーズしようと思つてきはるカップルもありますし。小さいとき連れてきてもうて、何となく炭屋つていう事だけ覚えて、熟年になつてから昔のこと思ひ出して、一人で訪ねて来られた男の方とか、結構おいでになります。あとは女性の一人旅も、この頃毎日のようにありますので。そのお客さまが、ここへ何を求めて来てくれはつたかを早くキャッチできたなら、そのお人に合うお話をさせていただけると、まあ一緒に、ちよつと涙ぐむこともありますし、喜ぶこともあります。もう気持ちが合えば、明日、どこか行きたいけどこうしてほしいとか。それやつたら、観光タクシーのほう

サイズは合いますか。

**堀部** 特に男の方が大きいので、ゴムが入つた帯で(笑)、大木にせみの様に抱きついて帯を回してさしあげることもありますけど。浴衣のサイズはキングサイズもあるんで、それは大丈夫です。たまには買つて帰らはることもあります。

### しつらえを大事にする

次の世代の方へのメッセージのようなものがありましたら、話していただきたいんですが。

**堀部** このお部屋は洗月といって、銀閣寺の国宝の東求堂の後ろにあります。洗月亭というお茶室を模したもの

がいいですよとか、お昼予約しましょとか、そういう話になることもありますし、いかにお客さんの心をキャッチできるか。それと、部屋係とうまいこといつてるか。一品ずつ運んでる部屋係とそりがたまには合わないこともあります。

例えば、今日の観光タクシーの態度がすごく悪かつたことだつて、顔に出てはります、夕方お着きになつたとき。それが、何でそういうお顔をなさつてるのかしらとか、またお膳で召し上がつているときに、写真が立つて来てもあるんです。亡くなられたお母さまと一緒に連れてきてさしあげてはるんです。そういうときはちよつと、お供えさしてもうたり。そのお客さまによつてケースバイケースです(笑)。そのお客さまが今、何を思てはるのか、それを正確にキャッチできたらいいなあと思つう。もう、それは日々努力です。

お二人つきりできはつて、じゃませんといつてほしいなと思つてはるんやろなと想像できるようなカップルもいはります。そういうときはもう、どうぞこゆつくりいうて引いてきますけど、逆に一人旅の方は、私を相手に沢

なんです。一本木で丸い円弧を描く床柱。床框を水面に見立てて丸い月が昇るところを表しています。当時はやりました舟底天井と、この丸い円弧を描く床がとても珍しいいうて。普請道楽だつた先々代のアイデアです。当時にしたら斬新な思ひ付きだと思つています。その頃は、もちろん椅子、テーブルがなかつたので、ここに座敷机があつて、正座をして床を拜見してたんですね。ところが、いつの間にかこんな椅子ができてしまつて(笑)、テーブルができてしまつて。初め、私もイスは反対してたんですけど、もうそんなん言うてられへん。やっぱり外人さんも、日本文化を体験したいので、そんな時は座敷が希望なんです。でも、足がもたへんの(笑)。結局椅子持つていくことになりました。朝ご飯をここで召し上がるものすごく喜ばはるんです。こういう座敷のこの



しつらえは、ホテルではなくて旅館なんです。このしつらえを、次世代に残してほしい。畳の文化、土壁の文化と、掛け物の文化、この材木の文化。コンクリートではできない世界ですし、やっぱり日本の文化が集約されてると思います、旅館には。この日本の文化を、次世代の人にも伝えられるような人になってほしいですね。次の世代に伝えんとなくなってしまう。それはもったいないし、惜しいなあと思います。

### そばで見て大きくなる

そういう考え方っていうのは、嫁が来てからですか。

堀部 私の父がここで育ってますので。小さいときから古いこと言うてはったし、昔のそういうことを大事にしてきたうちで大きくなってるので、まあ半分は身についてたかしら。掛け物も母が掛けているのを横で見ましたし、そういう事は大事だと思います。今の子供達はそれがないので、床の間を知らなければ掛け物も知らない、兩戸がなければ戸当りのことも知らないやろし、畳がなければ畳の事は知らんわね。そういうことを子どもたちに何とか伝えてやってほしいなあと思う。伝える、学ぶというより、そばで見えて大きくなる、それって大事やなあと思う。何か母親がしてたなあ、その程度でいいのです。見て大きゅうなってほしいなあと思いますね。

しまうみたいだね、そういう、社会からある種のプレッシャーみたいなものを感じて生きてる方が多いのでは。

堀部 何か、皆がとつても忙しいですね、毎日毎日。それで、面倒なことは後回しになってしまう。掛け物直すこと、敷き松葉だつてめんどくさいと思うし、時間もかかる。何かそういう事が後回しになるっていうのかな。省略するっていうのかな。早く早くと前に進むばかりでなく、ちよつと立ち止まって潤す事かしら。

それが、文化では。

堀部 だんだん日本の文化をゆっくり考えることがなくなつていくのが何か怖い。大事にしないとけないと思いますね、お茶を含めて。お客さまに喜んでもらわないと。両親が倒れて、私が先頭でがんばらせてもらうようになつて一番にしたことは、高膳の修理やつたんです。高膳の角がちよつと傷んでるな、直したいなつて思うのがいくつあつたのですけど、母が注文してはったし、あんまり口出ししなかつたのですが、思い切つて塗り替えたのですけどね。座敷にイスを置くようになってしまいました。

そういうものをこだわって使つていこうという姿勢がないと、それを作られる方もだんだんなくなつてきて、結局できなくなるっていう。

堀部 そうですね。お茶は特に、こんな高い椅子やテーブルでしたら危ないのでなるべく座敷でしますけど、やっぱり、食事は椅子でつて(笑)、言わはりますね。

その辺は、要望と文化の戦いですね。で、どつかで折り合わなきゃいけないってことで、こつこつ対応もされるという現実ですね。

堀部 そうですね。できればお茶席では畳で、でもお食



### 敷き松葉あるとないでは庭の値打ちが違う

堀部 めんどくさいですもんね、掛け物替えるつて。お花だつて。本物入れたら枯れてしまいますし(笑)。でも、そんなことと違うし、この敷き松葉でも、暮れに敷いて年が明けて、またその上に敷いて分厚うしてあつた。今、暖冬でひと冬に一回でいいんです。とつてもめんどくさいことと思うけれど、これがあるかないかは随分、庭の値打ちが違う。何もかもが、簡単なほうにいつてしまつているのが、何か残念でたまらない。そう言いながら自分も、辞書を引かずにパソコンで、インターネット使うんですけどね。おかしいですね(笑)。

### 立ち止まって潤す

この、めんどくさいことをめんどくさがらずにやつていくという、そういうことを大事にしていくためには何が必要でしょうか。

堀部 みんなが忙しいから何でも後回しや省略してしまつてしまつてるんでしょね、きつと。私も何か、二、三日出歩いてると、掛け物が後回しになつてますし、部屋を見て歩いたり、客室の床とかお花を見て回るのも、一日遅れ、二日遅れになつて。ちよつと立ち止まる時間が必要なん違うかしら。ちよつと自分の時間を持つて、ああ、あそこの掛け物替えとか何とか、ふつと立ち止まるつて、大事だなあと思う。振り返るんじやなく、立ち止まるやね。今を見るつていうのは、大事な事です。今の社会つて、立ち止まってしまつと、何か取り残されて

事は椅子で。それぐらいならお受けします(笑)。どつかで折り合わないとね、今の文化に。それと、要望が多いのは、トイレのウォッシュレットやワイファイです。もう本当に、ここ二、三年でがらつと変わりましたね。あともう一つは介護です。私も何年か母の介護をしたので、ここに手すりがあつたら楽だなとか、後ろからこつ支えてあげたらお風呂が入りやすいなつて、その頃すごく勉強しました。お年寄りを連れてきはるお客さまも増えたので、経験した事を取り入れて、お風呂やトイレに手すりつて、と学んだ事を生かしています。それも、昔では考えられなかつたことですね。だから、お風呂もトイレもちよつと間口を広くすることや、フラットにしてつますきがないようにしていますね。便利な世の中になりましたけど、やっぱり、こういうものはこれからも必要になつてくると思つています。

それと、外人さんにベッドをすすめると、ヒヤイズジャパン言うて、お布団ひいてつて言わはるんです。うれしいですね。日本を、楽しもうと思つて来てくれてはるんです。

お客さまが言わはるんです。東京の銀座はすごいですよ、外人さんばかりで、だから行きにくいつて。それとおんなじで、「京都も外人ばかりやし、しばらくやめとか」つていうことになつたらかなんなあと思つてます。

中国の方も多いですね。欧米の方は、穀類、小麦粉アレルギーとか、宗教であれが食べられないとか。それから、お食事が始まつてから、実はなまものがだめだとか、「そんなん今頃言わんといて」つて言いたくなるようなこと結構言わはりますけど、中国人のお客さまには、それが無い。それはありがたいですね。おはしが使



堀部 そうですね。だから、浴衣等着せてさしあげたりして、少しでも日本を味わって頂きたいと思っています。

よう似合うねとか、ひとつでもほめる。やっぱりほめられたらうれしいですもんね。

### チャンス逃さずに、 そしてみんなの前で恥をかかせない

従業員の教育で「苦労されていること」か何かありますか。

堀部 沢山あります（笑）。相手も人間ですもんね。なかなか難しいですね。ただ、心がけてるのは、みんなの前で怒らない。その人その人にもプライドがあると思うし、ちょっと陰に入って注意する。それと、時間をおかない。今、すぐに注意するとき目もあるし理解しやすいで恥をかかせない。それは心がけてます。そして、みんなの前一つほめる。今日、上手に帯結んでるねとか、その着物

### インタビューを終えて

炭屋旅館の1室は、銀閣寺の洗月亭を模した床柱と床框、窓外には敷き松葉。一瞬、日常を離れて別世界にいる感覚。女将の語りは、一方で掛け物や花といったつらえを大事にしつつ、他方でお客さんの身になって考えることで日本文化を大事にしていくという気概のようなものを感じた。いかにお客さんの心をキャッチできるかを一期一会で対応していく。敷き松葉の有無で庭の値打ちが違ふと表現されたり、立ち止まって潤す感覚を大事にされていることに、日本文化の奥深さを教えられた。

聞き手 島中 宗一（関西福祉科学大学教授）



## PROFILE

### 堀部 寛子 Hiroko Horibe

裏千家学園で3年間茶道の修行、その後家業の炭屋旅館を手伝う。父・公允は裏千家老分をつとめるが、15年程前体調を崩し、入退院を繰り返す。看病する母を助け、またその母も入院、気がついたら手伝うという気持ちのまにか頑張らなくては変わっていた。毎月7日と17日の夜にはお茶が好きだった先代、先々代の供養の釜を懸け、宿泊のお客様をもてなしている。昭和26年生まれ。

炭屋旅館 京都市中京区麩屋町三条下る  
電話 075-221-2188

## コラム ゴリラレポート



### 第3回 ゴリラは声を立てて笑う

野生ゴリラの観察を始めて間もないころ、草藪の中から不思議な声が聞こえてきて戸惑ったことがあった。ぐこぐここという低く、くぐもったような声で、はじめはゴリラかどうかさえわからなかった。ゴリラはよくおならをするので、変わったおならかな、と思ったほどだった。当時はゴリラがまだ私になれていなかったから、姿を見ることはできず、どんな状況でこんな変な声が出てくるのか、見当もつかなかった。

ゴリラがなれて、群れの中で観察できるようになったころ、6歳ぐらいの子どもゴリラがやってきて、私の顔をじっとのぞき込んだ。目がきらきら光っていて、なにかいたずらをしてしているらしい。私が無関心を決め込むと、立ち去る瞬間こちらを振り向いて、あの声を出したのである。あれっと思つた。それから、このゴ



リラは他の子どもに小走りに駆け寄って、取っ組み合いの遊びをはじめた。そして、相手に組み伏せられると、ぐこぐここと声を立てたのである。



笑い声だったんだ、と私は気がついた。それまで私はゴリラの笑い声を聞いたことがなかった。日本の動物園に子どもゴリラはほとんどいなかったし、野生のゴリラも緊張を解いて遊べる状況でなかった。ゴリラの群れの中に入ることを許されて、初めて私はゴリラが笑うところを目撃できたのである。

サルは遊ぶことはあっても、笑い声は立てない。グリメイスという歯をむき出して笑いのような表情を浮かべることがあるが、それは強い相手にこびるためである。決して楽しさや喜びから出てくる表情ではない。人間の

微笑はこのグリメイスが起源だという仮説がある。微笑は自分がへりくだって相手に敵意のないことを示す平和のポーズだというのである。

面白いことに、ゴリラにグリメイスはない。ゴリラにはへりくだるという仕草も表情もないからだ。体の大きさに関係なく、ゴリラは常に対等な関係を好む。だからこそ、ゴリラは遊びが大好きだ。遊びは、体の大小に関係なく、対等にやり取りをすることが原則だからである。追いかけてたり追いかけられたり、組み伏せたり組み伏せられたり、役割が常に交代することによって遊びは成立するし、楽しければ楽しいほど長続きする。ゴリラの子どもたちはときどき息をつく休憩をはさみながら、実に1時間以上も遊び続けることがある。平均1分程度しか続かないサルの遊びとは雲泥の差である。

笑いは遊びの推進剤になる。笑いによって相手が楽しんでいること、自分ももっと関わりたいと感じていることを知り、遊びに積極的になれる。実は、ゴリラ以上に声を立てて笑うのは人間である。人間の暮らしの随所に笑いが盛り込まれている。楽しいから笑うし、笑うからもっと楽しくなる。笑いは人間生活を遊びの場に転換し、人々をつなぐ接着剤として進化してきたのだとつくづく思う。

ゴリラは腹をふるわせて笑う。まさに腹を抱えて笑うのだ。人間は爆笑、苦笑、冷笑、哄笑など、さまざまな笑いを分化させた。一度、ゴリラのように腹を抱えて笑ってみるといい。笑いの原点、全身で笑うことの楽しさがわかると思う。

## PROFILE



理事 山極 寿一 Juichi Yamagiwa  
京都大学総長

1952年東京生まれ。霊長類学者・人類学者。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学。理学博士。ルワンダ共和国カリソケ研究センター客員研究員、日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教授、同教授、同研究科長・理学部長を経て、2014年より第26代京都大学総長。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長を歴任。現在、日本学術会議会長、国立大学協会会長、環境省中央環境審議会委員を務める。

# 2018年度 研究助成採用結果のご報告

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団では、日本国内の研究者への助成事業を行っております。2018年度も研究助成に多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。本年度の公募および採用結果は次の通りです。

## 応募結果

総数 484 件。分野別応募件数は「食品分野」107 件、「環境分野」41 件、「医学分野」271 件、「福祉分野」65 件という結果でした。

## 審査概要

当財団の選考委員による1次審査を経て、選考委員会での厳正なる審査の結果、22 件の研究を採用致しました。

これからも「ひとの健やかでこころ豊かな未来」を実現するために助成を続けてまいります。皆様方のご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

## 選考結果：採用 22 件（応募総数 484 件）、助成金総額 21,010,000 円

### 食品分野 採用 5 件、助成金 4,470,000 円（応募数 107 件）

氏名	所属	研究課題
山崎 正夫	宮崎大学 農学部	ナノ粒子から見た野菜・果実を生（なま）食する食品機能学的意義の解明
高橋 希元	東京海洋大学学術研究院 食品生産科学部門	えん下困難者向け魚肉ゲルの物性と機能性に関する研究
柘田 哲哉	京都大学大学院 農学研究科	苦味、渋味低減による食品の高嗜好化受容性強化に関する研究
松澤 哲宏	長崎県立大学 看護栄養学部	耐熱性カビの殺菌条件および簡易同定法に関する研究
木村善一郎	呉工業高等専門学校 環境都市工学分野	ジビエ消費拡大を目指した「美味で」「安全な」低温調理法確立

### 環境分野 採用 3 件、助成金 2,840,000 円（応募数 41 件）

氏名	所属	研究課題
曾我 昌史	東京大学大学院 農学生命科学研究科	身近な自然との関わり合いを決める環境・社会要因の特定 ～次世代の「経験の絶滅」を防ぐために～
鋤柄 千穂	東京海洋大学 船舶・海洋オペレーションセンター	東京湾における人間活動の影響とその時間変化 —粒子状物質の輸送過程から考える—
酒井 章子	京都大学 生態学研究センター	東南アジア熱帯地域の森林保全における国際社会と地域社会の コンフリクトと将来シナリオ

### 福祉分野 採用 3 件、助成金 3,000,000 円（応募数 65 件）

氏名	所属	研究課題
高橋 康史	名古屋市立大学大学院 人間文化研究科	犯罪・非行からの立ち直りに関する当事者活動の社会的機能に関する研究
野島那津子	大阪大学大学院 人間科学研究科	障害者とは誰か？ —障害者手帳をめぐる筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群及び線維筋痛症当事者の語りから
Virág Viktor (ヴィラーグ ヴィクトル)	長崎国際大学 人間社会学部	東アジアの大都市圏に居住する先住民族に対応したソーシャルワーク実践モデルの検討 ～先住地域から離れて生活するアイヌと台湾原住民の相談実践から～

### 医学分野 採用 11 件、助成金 10,700,000 円（応募数 271 件）

氏名	所属	研究課題
程 久美子	東京大学大学院 理学系研究科	体温調節によって遺伝子発現をコントロールしてヒトの健康を保つ機構の解明
中澤 洋介	慶應義塾大学 薬学部	老眼発症遅延薬の開発を見据えて：老眼発症メカニズムの解明と老眼モデル動物の開発
片岡 宏介	大阪歯科大学 口腔衛生学講座	粘膜免疫を基盤とした新規アジュバントを用いた経鼻ワクチンによる抗ホスホリルコリン抗体の誘導と動脈硬化アテローム形成阻害能の検証
岡本圭一郎	新潟大学大学院 医歯学総合研究科	酒粕トリプトファンが社会的敗北ストレスに起因する痛みと睡眠障害を改善する脳神経機構の解明
益谷美都子	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	PARP 阻害剤による慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防と進行抑制の研究
中村 太志	熊本大学 医学部附属病院	ウェアラブル電極インナー IoT を用いた生体情報モニタリングによる食塩感受性のメカニズム解明
林 久恵	星城大学 リハビリテーション学部	機械学習を用いた歩行時足圧パターン分類による糖尿病足病変形成リスクの層別化
色摩茉衣子	大阪大学大学院 医学系研究科	爪郭部毛細血管顕微鏡を用いた糖尿病患者教育システムの開発
川野 光子	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	がん治療における副作用の克服を目指す研究
津田 玲生	国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター	機能性食品からのアルツハイマー病先制治療薬の同定
金澤 裕樹	徳島大学大学院 医歯薬学研究部	MRI による脳年齢測定を目的とした myelin の体積の計測と可視化

## 2018年度助成研究発表会 特別講演会のお知らせ

本年度も助成研究発表会に合わせて、一般の方にも最先端の研究にふれていただくために、特別講演会を開催いたします。

### 2018年度 特別講演会

演題 美味しさの構造とその客観的評価

講師 伏木 亨

公益財団法人  
ひと・健康・未来財団 理事  
龍谷大学 教授



開催日 2018年11月10日(土)16:00~17:00

会場 メルパルク京都 5F京極  
(JR京都駅前)

主催 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団

参加費 無料

### 【参加要項】

ご参加 事前申込制／定員 250 名  
申込方法 FAX、メールまたはお電話で「特別講演会参加申し込み」と「お名前（ふりがな）」「返信先」をご記入の上、下記までお申し込みください。

受付開始 2018年9月20日(木)  
申込先 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団 事務局 森田直子

TEL&FAX 075-212-1854

Email hitokenkoumirai@jnhf.or.jp

—お申し込みをお待ちしています—

# 動物の感覚

## —ヒトとの比較において—

京都大学霊長類研究所  
ゲノム細胞研究部門ゲノム進化分野

教授 今井 啓雄  
大学院生 林 美紗

二〇一六年度のひと・健康・未来研究財団研究助成に採択され、研究をサポートしていただいたことに心より感謝申し上げます。私たちは、身近な動物の感覚を研究することで、ヒトとの違いや似ているところを理解し、ヒトの暮らしに役立てると共に、よりよい共存関係を目指したいと考えています。

### 感覚受容体

五感という言葉がありますが、それぞれの感覚を仲介する目、鼻、口などの器官には感覚受容細胞があり、そのなかには受容体というタンパク質が存在しています。受容体は刺激をうけると、感覚受容細胞の活性化を通じて、神経の信号として脳に情報を伝えます(図1)。受容体の働きは、タンパク質を作る時の遺伝子によって決まるので、最近ではこの遺伝子を基にして試験管やシャーレの中で受容体を作り、生物の内部で起こっている現象を実験室の中で再現することができ、シャーレの中のものを使った実験を減らすことができ、シャーレの中で進化や分化の様子を観察できます。例えば味覚に関係するタンパク質の研究の結果、世界の各地に住むサルが、苦味や甘味をヒトとは違うように感じていることがわかってきました。

### ヒトとニホンザルが感じる味

味覚には基本五味として甘味・旨味・苦味・酸味・塩味があります。甘味・旨味受容体であるTAS1Rsと苦味受容体TAS2RsはGタンパク質共役型受容体※(GPCR)の仲間です。多くの神経伝達物質や嗅覚受容体とも構造が似ているといわれています。ヒトやニホンザルは約二六種類の苦味受容体を持っていますが、それぞれの遺伝子構成は微妙に異なっています。そこで、これらの遺伝子をもとにシャーレの中で様々な霊長類の味覚受容体を比較しました。

その結果、ニホンザルはヒトよりも麦芽糖の甘味に敏感であることがわかってきました。麦芽糖は、葉や種子などに含まれるデンプンが口腔内で酵素分解して生じます。麦芽糖の甘味に敏感なことは、葉や種子を採食する際に甘味を感じやすくなって有利なかもしれません。また、苦味についても樹皮の苦味を感じるTAS2R16は苦味を感じにくくなっていました。冬場に樹皮を食べるニホンザルには、苦味を感じにくい方が樹皮を食べやすくなっていると考えられます。これらの結果は、飼育霊長類の行動でも確かめられています。また、TAS2R38と呼ばれる別の苦味受容体の遺伝子には地域差もあることがわかってきました。もしかしたら

ニホンザルでもヒトと同じように食文化が存在し、遺伝子とも関連があるのかもしれませんが。

### 葉食ザルの感じる味と感じない味

日本各地と同じように、アジア・アフリカにも様々な霊長類が存在します。ニホンザルと同じ旧世界ザルでも、葉を主食とする一群の霊長類(コロブス類)が知られています。そこで、我々はコロブス類の味覚受容体についても、マカク類やヒトと同じかどうか検討を始めています。ヒトではTAS2R38の機能に個人差があることが知られており、一部減弱している遺伝子型を持つヒトはフェニルチオカルバミド(PTC)という物質の苦味を感じません。ところが、コロブス類の場合は、ほとんどの種・個体がPTCの苦味を感じにくいことがわかってきました。また、コロブス類は甘味も感じないかもしれないことが最近わかってきました。葉食に特化した霊長類の味覚がどのようなものであるのかは興味深い課題と思われれます。(図2)

### 消化管における味覚受容体の役割

最近では味覚受容体が身体の様々な部位に発現していることが示されています。例えばマーモセットという南米に住むサルは、盲腸と大腸で味覚受容体やその情報を伝える分子(gustducin, TRPM5)の発現量が非常に多いことがわかりました。消化管における味覚受容体は、甘味や苦味などの味覚を感じることも、ホルモンや免疫応答、消化管ガンとの関連から注目されています。現在、どの細胞にどんな受容体が発現しているのかを調べていますので、その結果をヒトに応用することにより、味覚受容体に関わる生理機能の全体像がわかってくると期待されます。

以上、様々な霊長類は、それぞれ特有の味覚を持っていることがわかってきました。現在、カラスのくちばしにある触覚受容体や、クマの味覚受容体などにも取り組んでいます。ヒトと野生動物がお互いに共存するための方法を模索する上でも非常に重要であると考えています。

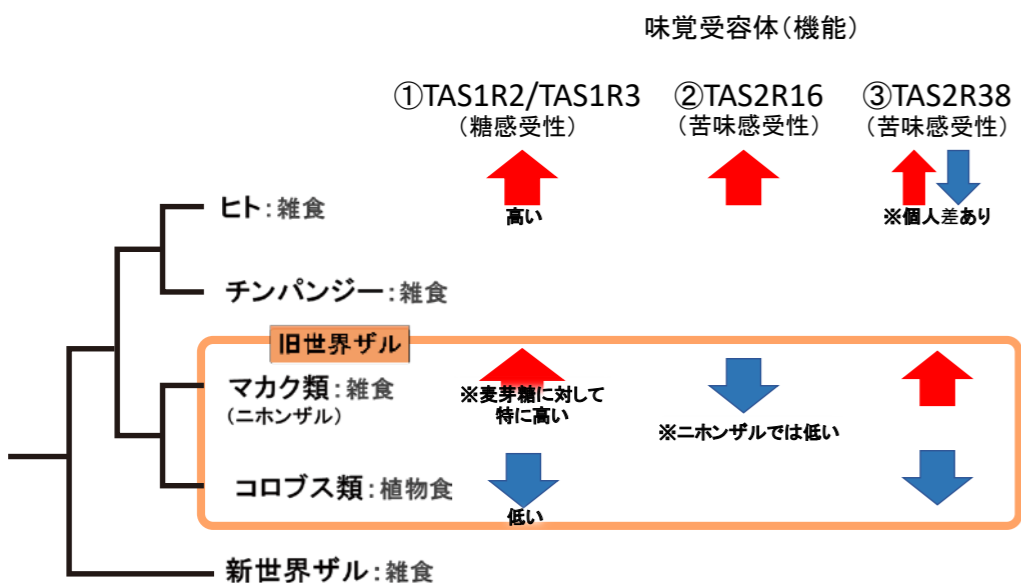


図2 霊長類の系統樹と味覚受容体の機能(それぞれの動物種で感覚が異なることがわかる)

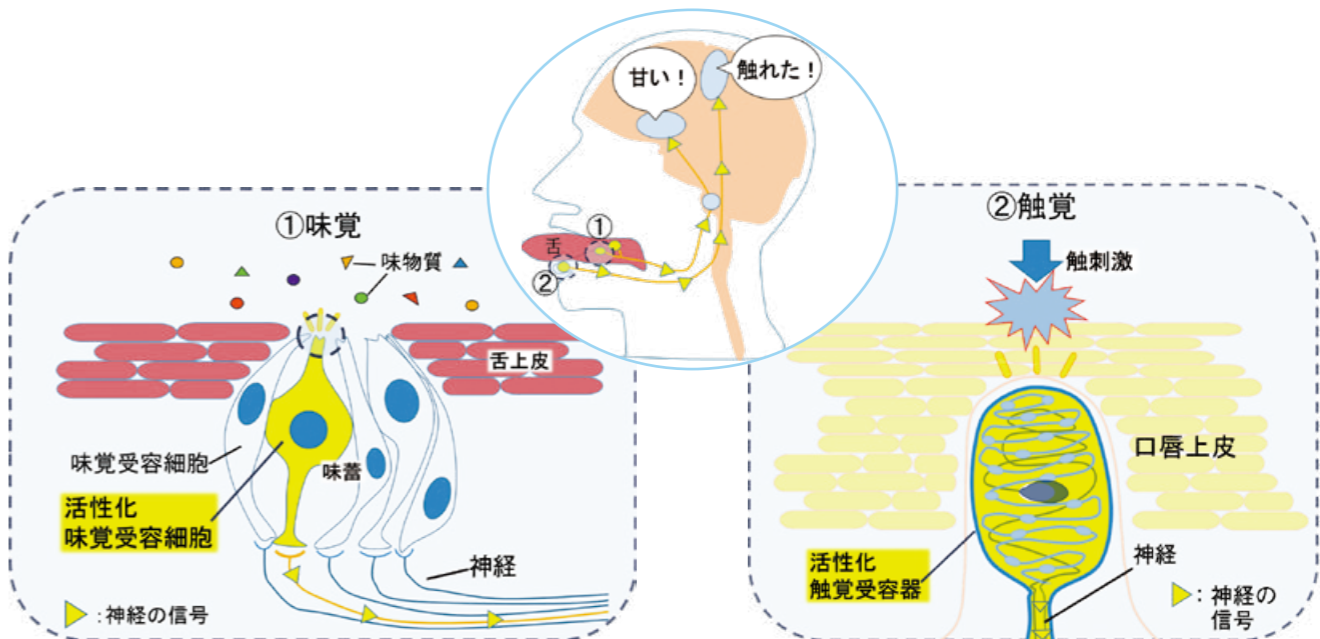


図1 感覚受容細胞(味覚と触覚の例を示した)

※Gタンパク質共役型受容体(GPCR)生体存在する受容体の形式の一つで、多くの種類が存在し、様々な機能に参与する。Gタンパク質を介してシグナル伝達が行われるため、このように呼ばれている。

研究助成事業 2016年度採用者

研究課題 味覚・嗅覚を手がかりとした食欲増進と生命機能維持

PROFILE

林 美紗  
Misa Hayashi



宇都宮大学農学部卒業、宇都宮大学大学院農学研究科修士課程ではカラスのくちばしの触覚に関する研究に従事。現在、京都大学霊長類研究所博士後期課程において、霊長類の消化管における味覚受容体の役割に関する研究に従事している。

PROFILE

今井 啓雄  
Hiroyuki Imai



京都大学理学部卒業、京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士(理学)取得。日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、京都大学大学院理学研究科生物物理学教室にて色覚の研究に従事。現在、京都大学霊長類研究所教授。味覚を中心に、ヒトを含む霊長類の感覚に関する研究を行っている。



# 京の油商人の、昔と今とこれからと

株式会社山中油店 取締役 営業部長

あさはら きみこ  
浅原 貴美子

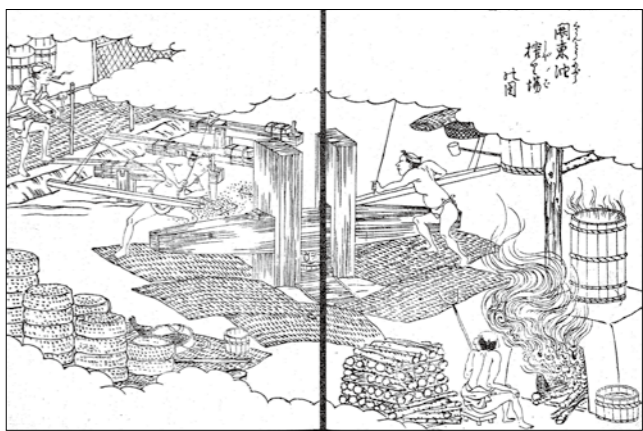


あらゆる油の専門店  
**山中油店**

写真は山中油店の店舗です。油商としてほぼ二百年間このまんまの姿で残っております。私はこの家で生まれ育ちました。幼い頃、店ではお客様が持つてこられた瓶に油を入れる量り売りをするのも多く、油がゆつくりと柄杓から流れ落ちてゆくのを飽きることもなく見ていたり、油をすくって遊んでみたり。油が好きで、あんなきれいな色のものではないと思う気持ちは今も昔も変わりません。

よくご覧いただくと雨樋が竹でできております。普通これだけ間口が広いと青銅の雨樋をかけますが、うちの家訓は「質素儉約を旨とすべし」ですので、当時安価だった竹を使ったのだそうです。今ではこれだけ長い竹を探すのも大変な上、七〇八年に一度かけかえが必要で、儉約と言えない出費ですが、先人の教えを守るべく、その習慣を続けております。

初代は平兵衛と申しまして、江戸時代後期の文政年間（二八一八〜二八三〇年）に店を構えました。私の父が五代目です。商標は、油屋なのに山に「麴」。実は、お隣が本家で同じ山中という親戚でお醤油屋さんでした。そこから分家して油屋になりましたが、そのまま「やまこ



『製油録』天保7年（1836年）刊行より  
(国立国会図書館ウェブサイトから転載)

うじ」を使わせてもろてます。創業当初はお燈明用の菜種油を取り扱っておりました。「神佛燈明売捌処」と書いた看板を掲げており、現在も京都の社寺にお燈明用の菜種油をお届けしております。

右の図は江戸時代の搾油の様子です。搾木という搾油機で、くさびを打ちつけて、ナタネを押し搾ります。これは大変な重労働で、カンカンと木槌の音が響き渡ります。またナタネを焙煎して置いたので、そのにおいが立ち込めました。ナタネのたんばく質分を固めて搾油率をよくするためです。私どもの店は住宅密集地にごいませので、音にも出る油の製造はできません。郊外や大阪で搾られた菜種油を仕入れていたらしく、創業の昔から油商人でございました。

## 日本における食用油の歴史

油はどのようなにして日本に伝わり、使われるようになってきたのでしょうか。

●飛鳥・奈良時代／仏教の伝来とともに遣隋使や遣唐使により、中国から胡麻油や煎餅、揚げ菓子が伝わりま

す。  
●平安時代／一一六〇年ほど前、大山崎の油祖離宮八幡宮で神官がエゴマ（荳胡麻。ゴマとは異なる、シソ科の一年草の種子）の搾油を始めます。油は非常に貴重なもので、搾られた荳胡麻油は燈油として石清水八幡宮や朝廷に献上されました。

その頃、唐菓子が登場します。この唐菓子のひとつに餠餠があります。写真は春日大社の旬祭に参列し、特別にいただいたものを私がまねて作った餠餠ですが、実際には神職しか作れないものです。手のひらからはみ出るぐらいの大きさで、祭事で献上される神饌、お供え物です。もうひとつは祇園の石段下の亀屋清永さんの清浄歓喜団です。餠餠も清浄歓喜団もどちらもこま油で揚げてあります。貴重な油で揚げているものは、まず神様仏



餠餠



清浄歓喜団

様に捧げる、またそのお下がりをおいただけるのは、貴族や特権階級の方のみ。一般庶民には到底目にも口にもすることもできなかったのです。

●鎌倉時代／禅宗が発達し、精進料理が形成されます。油を使った副食（油揚げやひろろす（関東で言う、がんもどき？）や素麺（表面に油を塗って乾燥を防ぎ細く伸ばす）もこの時期に作られるようになりました。それまでの貴族社会では、上流階級はそれほど活発に動かなかったと思われませんが、武士は活動的ですので、油をエネルギー源として食事の中に取り入れていったのではないかと考えています。

●室町時代／大山崎の油座が繁栄し、一般にも多少油が出回るようになりました。農業、商業、漁業が発達して、行商人のほかに店舗での販売も行われるようになります。また今の日本料理のかたちができ始めたのもこの頃です。

●安土桃山時代／キリスト教の伝来に伴って洋食系の料理や調理法が入ってきます。代表は天ぷら。語源は、ポルトガル語の「調理する」Temperar。テンペラール。だという説がありますが、はっきりしていません。

●江戸時代／鎖国の間、長崎の出島では卓袱料理が発達してまいります。和の要素と中華、オランダ・ポルトガルの異文化が合流し「和華蘭料理」とも言われます。また、京都・宇治の黄檗山・萬福寺には、中国から来られた隠元禪師によって普茶料理がもたらされました。どちらも遠来のお客様をもてなすためのお料理で、油を調理や旨味として取り入れています。



『近世職人尽絵詞』鍛形蕙齋（国立国会図書館ウェブサイトから転載）



一方、こちらは鍛形蕙齋が江戸時代の生活風景を描いた『近世職人尽絵詞』です。江戸では天ぷら屋台が庶民に親しまれていました。丁稚さんでも買えるフラストフードだったようです。右の男性は帯刀しているのをお待さんです。天ぷらを屋台で買い食いするなんて、身分の高い武士がすることではなかったの、お待さんは手拭で顔を隠しています。油物は栄養もありますし、きつとおいしかったんです。うね。こつそり行っても食べたい。ただ、これは江戸の話で、山中油店ではお燈明用の油が主流でした。

●明治時代／食に対するタブーがなくなり、カツやオムレツ、コロケが流行し、京都でも富裕層や知識層を中心に洋食が好まれ、老舗洋食店は明治三〇年頃から大正時代にかけて創業されたところがたくさんあります。経済的にも大きな転換期がありました。今まで使われていた菜種のお燈明から石油のランプやガス燈へと変わってゆきます。



●大正時代／こちらは三代目の山中平吾の頃の帳面です。紐解いて見ますと、実際に山中油店の界限で食用油が売れ出したのは明治のかなり終わり頃からで、盛んに使われだしたのは大正時代以降だと記録に残っておりま。小さな商家や職人さんが多い町だったので、食事は質素だったと推察されます。



東京問屋市場百周年記念「東京問屋史」より



昭和33年 産業まつりにて

室町時代ごろまでは荏胡麻油、江戸時代には菜種油、大正時代からは大豆油が出てきます。カツ井、天ぶらそばなどの「和洋折衷」が生まれ、サラダ油やマヨネーズが登場します。この時代、サラダ油は六百g瓶が八十五銭、当時お米が一升四十五銭、油がいかに高価だったかお分かりいただけるでしょう。

●現代／昭和十年代には戦中の統制の時代を迎え、油は配給制になります。先輩方に何うと「やっぱり戦中が一番厳しい時代やった」とおっしゃいます。

戦後の高度成長期、昭和三十一年、店舗にポスターやのれんを掲げ、「毎月一日、油の日」が提唱されます。栄養が不足していた時代に、毎月一日油を積極的に取りましょう、天ぶらや炒め物など、油料理で栄養を取りましょうという内容です。

昭和三十三年、京都産業まつりには、山中油店もパレードに参加しています。軽トラックに花の観覧車を飾

りつけ（回るものが好きだったらしく、店舗東の水車もその名残？です）、荷台に乗り込んだ従業員が風船をふくらましては沿道に投げ、とアナログながらアイデアに溢れた演出だったようです。

昭和三十年後半ごろから京都新聞の一面に広告を出していました。「朝刊は忙しくて読まへんけど、夕刊やつたら晩酌しながら見るやろ」という父の考えから夕刊に限られていました。その中でも傑作は「土用の丑にウナギが泣いております」。「ウナギばかり食べたらかわいそうやから、元氣の出る天ぶらを食べよう」というキャンペーンを打ち出したようです。来期はこれを復活させようという計画しています。冬は一升瓶を買ったら抽選券がついてきて「クリスマスケーキが当たる」編。その頃



【選別と洗浄】

実にキズや虫害があるとオイルの酸度が上がってしまうので除きます。葉っぱはベルトコンベアーで運ぶ際に風を当て吹き飛ばし、付着したゴミなどは水洗いで落とします。

【破碎から撈拌】

洗浄したオリーブは実も種も一緒に潰します。破碎してペースト状になったオリーブを温度管理しながらゆつくり三〇分くらい撈拌します。この「練り込み」工程が油滴を大きくし、油を取り出しやすくします。

【個体と水分と油分に分ける】

練り込んだオリーブをデカンタという遠心分離機で、固体と液体に分けます。液体には油分と水分が混じっていますので、さらにセパレーターという遠心分離機でヴァージンオリーブオイルを取り出します。

【フィルターにかけ、保管、瓶詰め】

搾りたてのオイルをフィルターにかけます。ノンフィルターでの濁ったオリーブオイルがよいと言われることがあります。濾と接する時間が長いとオイルの劣化を促進させてしまいます。すぐにフィルターリングしたオイルの方が、澄んだ味わいが保たれ、世界的にも評価が高くなっています。

出来上がったオイルはタンクに保管します。窒素充填し、鮮度を保ちます。

最後に黒い瓶にボトルリングします。日光や電灯など光による劣化を防ぐためです。ご家庭でも棚の中など冷暗所で保存し、開封後は三ヶ月以内で使い切る位の量にされることをお勧めします。

ケーキなんて滅多に食べられるものではなく、クリスマスケーキ欲しさに一升瓶が飛ぶように売れたのをおぼろげながら覚えていきます。あまり好評なので当選率を上げたところ「気前がよすぎると言われた」らしく、休止した次第です。

終戦後の栄養不足の時代から飽食の時代へと移り変わり、業態は変化してまいります。油だけでなく、小売店からスーパーで買い物をするが増えだした一九七三年にオイルショックが起こります。この頃油の業界は厳しかった時期で、個人経営の油屋がほとんどなくなりました。そんな中でうちが生き残ったのは、顧客システムがきちりしていたからだと思います。パソコンもない時代ですから台帳です。〇〇様のところに何月何日、菜種油を△本、ごま油△本配達、とすべて記録を残しておりましたので、どんなお客様の「〇〇ですけれど、いつもの油持ってきてくれはる？」にも対応できましたし、電話口で「へえ、おおきに、いつもありがとうございます」と深々と礼をしておりました。この台帳を基に本当にお客様を大事にしておりましたし、京都市内は全域配達、自転車回っていました。人、ものを大切にして敬う心というのが、あらゆる窮地を救っているのではないかと、先人の積み重ねに感謝しております。

上質の油を選ぶ時代へ

平成十二年から、オリーブオイルの直輸入を始めました。油、特にオリーブオイルにそれぞれ異なる味わいがあることを広く知っていただきたい、美味しいと思つたからでもらえる油を販売したいと思つたからです。直輸入ですから、必ず生産者さんを訪

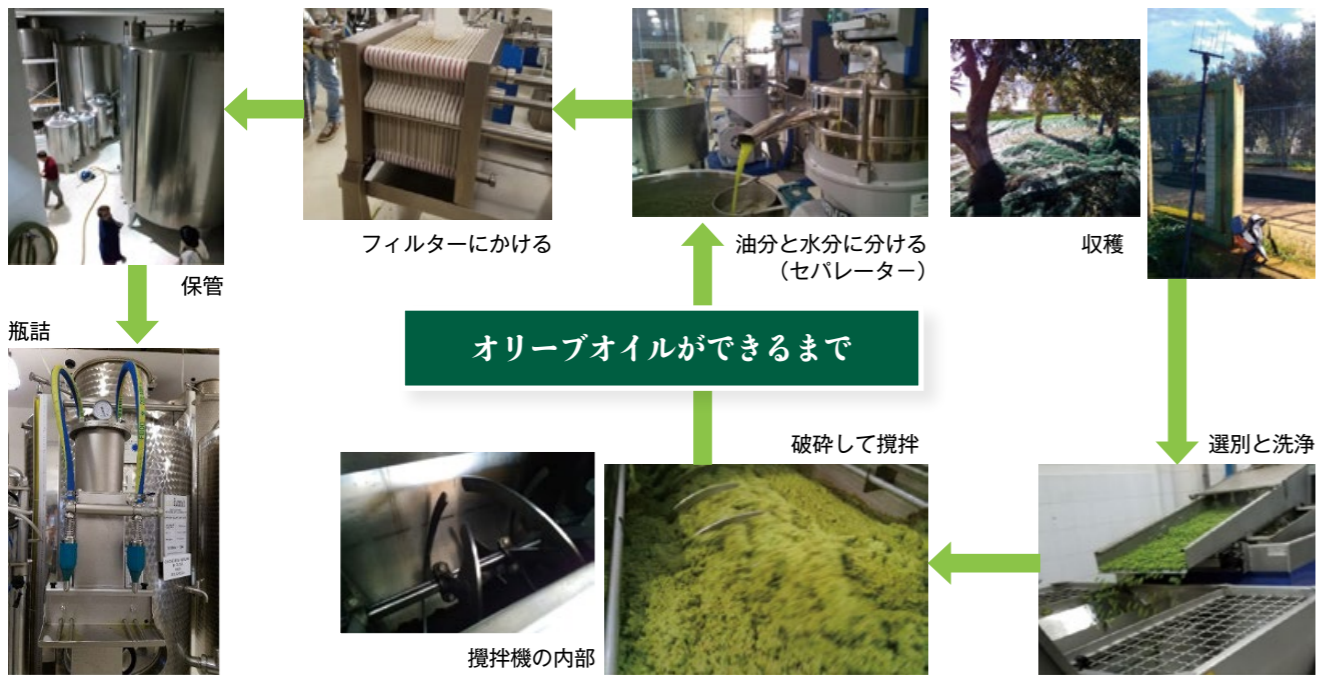


オリーブオイルができるまで

【収穫から工場へ】

まず、収穫のタイミングです。オリーブの実成熟度合いによって、緑色から紫色へと変わっていきます。若いうちは青々しく辛さや苦味が出やすく、熟すとまるやかな味わいになり油の含有量は増える傾向にあります。一般的に緑からやや紫がかった色づく頃が最良のタイミングとされていますが、どの段階で収穫するのは、品種によっても異なりますし、生産者がどんなオイルを作りたいかによって見極められます。

下の写真は昨年十一月イタリア・プーリア州で撮ったものです。木の下にネットを敷きつめ、柄の長いほうきのような道具の先端部を振動させて、枝についた実を落とします。ゴムのような素材なので実を傷つけません。ネットを手繰り寄せて実を集めます。オリーブオイルは生の果実を搾りますので、早く搾らないと良い油ができません。すぐに工場へ運びます。





「若々しさを保つ」等々、成人病予防のために控えたほうがいいはずの油が、健康志向の方々から求められるようになったのも急激な変化です。動物性油脂に多く含まれる飽和脂肪酸を減らして、良質の植物性油を、という考えが一般にも浸透してきています。

家庭での調理も変化しています。お出汁を取る人が減って、煮物から炒め物へ。油の消費量が増えたかと言ふとそうではありません。二十年前は殆どの家庭で揚げ物をしていましたが、今では約半数の人が家で揚げ物をしていないのだそうです。台所が汚れる、使用済み油の処理方法がわからない、後片付けが大変：色々な理由があります。しかし世代を越えて七割の人が「揚げ物が好き」と答えています。コロッケは揚げたものを買って食べるというお宅が増えているのです。

反面「同じように摂るならいい油を使いたい」というお客様の要望が増えています。鍋にくつつかないようにするために油を使うのではなく、味わいや特性によって油を使い分け、美味しく食べたい。山中油店の店頭では、どの油もお味見していただくことができますので、油の選び方がわからないという方から産地や香りを重視して選ぶ方まで、お客様の層は幅広く、「油ってこんなにおいしいんや！」という声が上がる度に幸せを感じます。

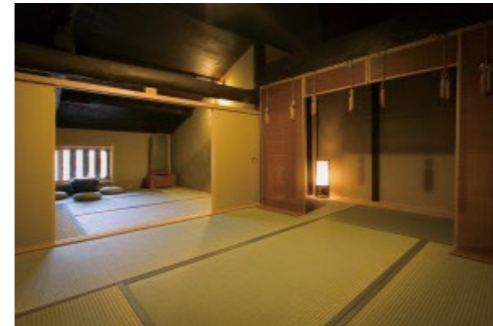
油屋の願い「油をもっと知ってほしい」

二〇〇五年、油のおいしさを知っていただくために「シヨップ&カフェ 綾綺殿」を開店しました。山中油店の油で豚カツやエビフライを召し上がっていただくお店です。油店のある辺りは平安宮内裏があったところです。そのカフェの場所はまさに「綾綺殿」という皇族方

が舞いや宴を楽しまれた殿舎があった所なのです。揚げ物を提供する飲食店なのに嫌な油の臭いがしない、フライ物がサクサクして胃もたれしなれないと言われ、人気店となりました。

その近くに代々残してきた借家で、十軒続く長屋がございます。京都でもこれだけ続いている長屋はほとんど残っていないのだそうです。高齢化で退出された借家の空き家対策と、この風情をいつまでも残したいという強い思いから、数年前ゲストハウスに改修しました。前述の紅殻・柿渋・荏胡麻油を使っているせいも、老若男女、国内外を問わず、「入ったらほっとする」「懐かしい木の家の香りがする」とお客様に好評をいただいています。

私は京都の老舗の油商人として、「油のおいしさ、一面白さ、奥深さを伝え続けたい」と願っております。本日の拙い話の中から、油に興味を持ってくださる方がおひとりでもいらっしゃれば、こんなに嬉しいことはありません。



京町家ゲストハウス



ひと・健康・未来  
インフォメーション

『ひと・健康・未来シンポジウム』のご案内

第21回 ひと・健康・未来シンポジウム 2018 神戸

「ライフステージにおける健康情報の管理」  
～誰もが健康になれるまち KOBE へ～

日時：2018年11月25日(日) 13:00~16:00  
場所：日本イーライリリー神戸本社 1階 LL ホール

- 開会の挨拶  
菊池 晴彦  
財団評議員/健康創造都市 KOBE 推進会議座長・神戸市医療政策顧問
- 「地域住民の幼少期からの健康の歴史を紡ぐデジタルコホート」  
川上 浩司  
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻薬剤疫学分野 教授
- 「データを活用した健診受診促進について」  
八木 正行  
全国健康保険協会兵庫支部 企画グループ長
- 「老年期・終末期の医療希望に関する情報の管理と活用」  
カール・ベッカー  
京都大学学際融合教育研究推進センター 政策のための科学ユニット 特任教授
- 市民 PHR 紹介  
三木 竜介  
神戸市 保健福祉局健康部健康政策課 健康創造担当課長
- 総合討論  
司会進行 橋本 信夫  
財団評議員/地方独立行政法人神戸市民病院機構 理事長



詳しくはホームページを  
ごらんください。

会員登録

会員に登録された方には、機関誌の送付、シンポジウムのご案内をします。

登録をご希望の方は、お名前・ご住所・Eメールアドレスをご記入の上、メールか FAX にてお申込ください。

E-mail: [touroku@jnhf.or.jp](mailto:touroku@jnhf.or.jp)  
FAX: 075-212-1854

バックナンバーはホームページからご覧いただけます。  
<http://www.jnhf.or.jp/>

vol. 18  
2018. 9  
編集後記

機関誌第十八号をお届けします。特集「人間の家族に未来はあるか?!」子育てと介護に希望を紡ぎ出す発想」は、今年三月二十四日に烏丸コンベンションホールで開催されたシンポジウムをまとめたものです。基礎研究と臨床研究の相互作用が、新たな知を創生する可能性を予感させるものでした。比較認知発達科学、終末期医療におけるケア、家族療法というキーワードは、一見バラバラの印象でしたが、子育て期、中年期、老年期の課題とも対応し、絶妙なコラボでした。スベシャルインタビューは、炭屋旅館女将・堀部寛子氏です。茶の湯によるおもてなしという伝統文化を維持していくための心意気を感じました。未来研究会の報告は、「京の油商人の、昔と今とこれから」と題し、文政年間に創業された株式会社山中油店の浅原貴美子氏です。油の歴史やおいしさ、そしてテイステイングと油の奥深さを知る機会になりました。

機関誌は、本財団の活動の記録でもありません。多くの情報が氾濫する社会において、良質な情報を届ける意義は小さくないと思います。編集委員一同、暑さに負けず精進していきましょう。

編集委員  
理事 島中 宗一

PROFILE



浅原 貴美子  
Kimiko Asahara

創業文政年間(1818-30)の山中油店にて、五代目・山中平三の次女として生まれ、今に至る。  
株式会社山中油店 取締役 営業部長。  
同志社大学経済学部卒業。  
日本オリーブオイルテイスター協会認定  
JOOTA オリーブオイルテイスター

▶山中油店  
京都市上京区下立売通智恵光院西入 508  
<http://www.yoil.co.jp/>